

2024 年度
(令和 6 年度)

聖泉大学看護学部
年次報告書

領域・委員会

目次

1. 領域活動報告

1 - 1	基礎看護学領域	1
1 - 2	成人看護学領域	3
1 - 3	老年看護学領域	5
1 - 4	母性看護学領域	7
1 - 5	小児看護学領域	9
1 - 6	精神看護学領域	11
1 - 7	公衆衛生看護学領域	13
1 - 8	地域・在宅看護学領域	15

2. 委員会活動報告

2 - 1	教務委員会	17
2 - 2	学生委員会	19
2 - 3	国家試験対策委員会	21
2 - 4	実習調整委員会	23
2 - 5	学術誌編集委員会	25
2 - 6	広報委員会	27
2 - 7	キャリアアップセンター委員会	29

1. 領域活動報告

1-1 基礎看護学領域

1. 構成メンバー

西山ゆかり教授、小林菜穂子准教授、高島留美講師、川端愛野講師、五十川響助手

2. 教育活動

基礎看護学領域では、「基礎看護論」「看護理論入門」「生活援助論Ⅰ～Ⅲ」「看護過程とヘルスアセスメント（解剖実習も含む）」「看護過程論」「リラクセーション看護論（旧カリ）」「補完代替医療・療法」「基礎看護論Ⅱ（旧カリ）」「看護導入実習」「基礎看護学実習Ⅰ」「基礎看護学実習Ⅱ（旧カリ・新カリ）」「地域統合実習（旧カリ）」「卒業研究（旧カリ）」「卒業研究Ⅰ（文献検索）」「家族論」の17科目を担当している。以下、詳細な内容を示す。

1年：「基礎看護論」「看護理論入門」では、看護の基盤となる「看護」「健康」「人間」「環境」の4つの概念、看護に関する法律や医療安全など、看護の考え方や看護実践をどのように理論に活用するのかを講義とGWを通して学生たちに考える授業を行った。「生活援助論Ⅰ」では、人が生活する上での「動くこと」「療養環境」「コミュニケーション」、看護者と対象者の安全を守るための「ボディメカニクス」「感染」について学習し、6月の看護導入実習では、習ったことを実際の臨床現場で実践した。後期の「生活援助論Ⅱ」では、療養生活を支えるための「食べる」「排泄」「清潔」など日常生活行動の援助について講義と演習を行った。実際の援助を行うことで、看護援助についてのエビデンスを踏まえてのケアを行うことができたようになった。

2年：「看護過程とヘルスアセスメント」「看護過程論」「解剖見学実習」「生活援助論Ⅲ」「基礎看護学実習Ⅰ」「基礎看護学実習Ⅱ」の講義・演習・実習を担当した。看護過程は、前期・後期を通して2事例の展開を行い、その事例に合わせてヘルスアセスメントについて演習をおこなった。「生活援助論Ⅲ」では、診療の補助業務を中心とした講義・演習をおこなった。誤認・誤薬体験や多くのモデルを活用した実践的な授業内容により学生の理解が深まった。9月の「基礎看護学実習Ⅰ」では、ペアで1名の患者を受け持ち対象理解を中心に実習を行い、2月の「基礎看護学実習Ⅱ」は、1年から学んだ知識や技術を用いて、1人の患者を受け持ち看護の展開をおこなった。

3年：「卒業研究Ⅰ（新カリ）」の文献検討を、基礎領域で担当した。情報センターで実際にデータベースを用いて、興味関心のあるテーマについて、今、どこまで研究が進んでいるのかを検索した。

4年：「地域統合実習（旧カリ）」「卒業研究（旧カリ）」「国試対策」を担当した。国家試験対策については、4月～12月まで、週1～2回のゼミでの学習会を行った。また、学生たちが他者を教えることで知識の定着ができるように教員がサポートした。卒業研究では、2～3名のゼミを組み、各教員が担当して文献検索～計画書作成までを担当した。基礎ゼミ内での研究の進捗状況の報告や発表練習など、学生間での情報交換なども行った。その他の必修科目である「家族論」「基礎看護論Ⅱ（看護管理）」、選択科目「リラクセーション看護論」についても各教員が担当した。

3. 研究活動

<論文>

- 1) 高島留美, 西山ゆかり：実習指導者として任命されていないスタッフ看護師が実習指導で体験した困難感, 聖泉看護学研究, Vol. 14, 13-22, 2025.

< 著書 >

- 1) 田中幸子（編著）、西山ゆかり、小林菜穂子、高島留美：看護学概論 第5版 看護追求へのアプローチ，医歯薬出版，2025.

< 助成金による研究活動 >

- 1) 西山ゆかり，川嶋元子，安孫子尚子，中島真由美，流郷千幸，小林菜穂子：学生から新人看護師への役割移行プロセスにおける社会人基礎力育成プログラム開発，日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究（C），2021-2024 年度.
- 2) 小林菜穂子，西山ゆかり，井内伸栄，平岡斎士，都竹茂樹，戸田真志：遠隔看護を見据えた看護学生のコミュニケーション能力を高める教育方法の開発，日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究（C），2021-2024 年度.
- 3) 川端愛野，西山ゆかり，小林菜穂子，高島留美，五十川響：聖泉大学研究推進助成金テーマ「母親の育児ストレスと ADHD 傾向に関わる実態調査」，2024 年 4 月～2025 年 9 月.

4. 地域貢献活動

- 1) 西山ゆかり
 - ・彦根市立病院地域医療連携委員（2021 年～2025 年 3 月・現在に至る）
 - ・彦根市立病院 第 1 回実地指導者研修「実地指導者って何をする？」講師（2024. 4. 16）
 - ・キャリアアップ講座「研究方法の方法と進め方」講師（2024. 5. 31）
 - ・キャリアアップ講座「基礎看護学領域の研究指導」（2024. 8. 30）
 - ・乳がんピンクリボンの帽子づくりワークショップ（2024. 10. 12）
 - ・糖尿病ブルーサークルイベント協力（2024. 11. 14）
 - ・びわ湖東北部地域連携協議会「（WG-C）地域を担う次世代の育成」～未来にはばたく看護職の人材育成～（2024. 12. 1）当日実行メンバー
 - ・彦根市立病院 第 2 回実地指導者研修「学生の特性と関わり方を理解し、新人看護師育成に活かす」講師（2025. 5. 21）
- 2) 小林菜穂子
 - ・近江兄弟社高校 学部学科セミナー 講師（2024. 7. 4）
 - ・糖尿病ブルーサークルイベント協力（2024. 11. 14）
 - ・キャリアアップ講座「基礎看護学領域の研究指導」（2024. 8. 30）
 - ・彦根市立病院 第 1 回実地指導者研修「実地指導者って何をする？」（2024. 4. 16）
- 3) 高島留美
 - ・糖尿病ブルーサークルイベント協力（2024. 11. 14）
 - ・ナイチンゲール看護研究会・滋賀（代表）
 - ・キャリアアップ講座「基礎看護学領域の研究指導」（2024. 8. 30）
- 4) 川端愛野
 - ・糖尿病ブルーサークルイベント協力（2024. 11. 14）
 - ・キャリアアップ講座「基礎看護学領域の研究指導」（2024. 8. 30）
 - ・米原高校模擬授業「学んでみよう バイタルサイン」
 - ・彦根市立病院 第 2 回実地指導者研修「学生の特性と関わり方を理解し、新人看護師育成に活かす」 （2025. 3. 21）
- 5) 五十川響
 - ・国宝五城天守合同床磨き（2024. 8. 17）彦根城の床磨きボランティア
 - ・第 38 回彦根シティマラソン 地域ボランティア（2024. 11. 10）

1-2 成人看護学領域

1. 構成メンバー

古川智恵教授、馬場好恵講師、岸本沙希助教、後藤直樹助教

2. 教育活動

- 1 年：「成人看護論」成人看護学の基盤となる事項（発達課題、生活の特徴、職業と疾患、経過別の特徴と看護等）について、事前・事後の学習課題を活用し理解を深めた。
「看護導入実習」入学 3 か月目に病院で行われている看護活動を見学し、病院の機能、環境や看護の役割について学ぶ実習を行い、学生は看護を学ぶ上での基礎となる経験となった。
- 2 年：「成人看護援助論Ⅰ」では、周術期およびクリティカルケア状態にある患者と家族の看護について講義と演習を組み合わせた授業を行った。演習では、術直後の観察や術後ベッドの作成、ME 機器の取り扱いなどシミュレーション演習を行い、学びを深めた。
「成人看護援助論Ⅱ」では、胃がんの手術を受ける患者の事例を用いて周術期の看護展開を行った。演習では、グループワークやアクティブラーニングを取り入れ、能動的学習ができた。一方で、看護過程の科目を履修中であり、看護過程の展開は基礎的な確認にとどまった。
「成人看護援助論Ⅲ」では、慢性的な健康問題を持つ対象を理解するための基本的な考え方を理解する為、講義と演習を行った。事例に基づいたレポート課題を課し学びを深めた。
「リハビリテーション看護」では、病気や事故により機能障害をもちながら生活することを余儀なくされた患者とその家族の身体・心理・社会的側面を捉え、リハビリテーション期の看護について学びを深めた。演習では機能障害のある生活の工夫を体験し、学修を深めた。
- 3 年：「成人看護援助論Ⅳ」では、悪性リンパ腫で薬物療法を受ける患者の事例を通して看護過程の展開を行った。薬物療法中の観察や副作用出現時の患者の寝衣・シーツ交換などの演習を取り入れた。リフレクションを活用し、フィードバックを行いながら教授した。
「がん看護ケア論」では、がんとともに生活する対象者を全人的に理解し、様々な治療を受けながら療養する患者の看護を考えることを目標として講義を行った。
「成人看護学実習（急性期）」では、臨地での実習を予定通り行った。生命の危機的状況から回復期に移行する患者を 1～2 名受け持ち、その患者と家族に対しての看護を学修した。
「成人看護学実習（慢性期）」では、臨地での実習を予定通り行った。慢性疾患を持つ患者を 1～2 名受け持ち、学内で振り返る時間を持つことで実施した看護の意味を考えた。
- 4 年：「卒業研究」「地域統合実習」「看護師国家試験対策」
ゼミ生 12 名に対し、看護師国家試験対策として週 1 回の勉強会を開催した。地域統合実習では、複数受け持ちや各自のテーマに沿って臨地で学びを深めた。卒業研究では、学生の希望に沿った研究テーマで指導を行い、卒業研究計画書を作成した。

3. 研究活動

<論文>

- 1) 古川智恵，森京子：緩和ケア認定教育施設に勤務する外来看護師の倫理的悩みと看護師の問題解決行動との関連—第 31 回日本がんチーム医療研究会—。癌と化学療法，51（4），413-416.
- 2) 古川智恵，森京子：急性期病院の病棟で緩和ケアを行う看護師の倫理的悩みと看護師の問題解決行動との関連。日本職業・災害医学会会誌，72（5），145-151.
- 3) 古川智恵，森京子：介護老人保健施設に勤務する看護職と介護職の職業性ストレスと燃えつき，抑うつとの関連。厚生の指標，71（6），17-24.

- 4) 森京子, 古川智恵: がん終末期療養者を看取る訪問看護師が必要とするサポーターピアサポートプログラムの開発に向けて一, 日本健康学会誌, 90 (4), 115-124.
- 5) 森京子, 古川智恵: 在宅でのがん終末期療養者の看取りにおける有効な振り返りー訪問看護の視点から一, 日本在宅看護学会誌, 13 (1), 12-19.
- 6) 森京子, 古川智恵: がん終末期療養者を看取る訪問看護師の自己効力感とピアサポートの実施状況との関連. 日本在宅医療連合学会誌, 5 (3), 18-25.

<学会発表>

- 1) 馬場好恵, 古川智恵: 卒後2年目のICU看護師が抱える職務遂行上の困難, 日本看護研究学会第50回学術集会, 奈良.
- 2) 馬場好恵: 卒後2年目ICU看護師が抱える職務遂行上の困難, 聖泉研究フォーラム 第1回発表会, 聖泉大学, 2024, 9月20日.
- 3) 岸本沙希: 経皮的冠動脈インターベンション治療中の患者に対するIVR看護師における心理的サポート, 聖泉研究フォーラム第1回発表会
- 4) 岸本沙希: 経皮的冠動脈インターベンション治療中に実践しているIVR看護師の心理的サポート, 第35回日本医学看護学教育学会(岡山国際交流センター, 岡山).
- 5) Imanishi U, Yamamoto M, Goto N, Kishimoto S, Baba Y & Furukawa C: Literature Review on End-of-Life Care Choices for Cancer Patients in General Wards of Acute Care Hospitals, 15th ICN&28th EAFONS, (Seoul, South Korea)
- 6) Yamamoto M, Imanishi U, Goto N, Kishimoto S, Baba Y & Furukawa C: Literature Review on Nursing Practices to Support Home Care Continuation for Parkinson's Disease Patients, 15th ICN&28th EAFONS, (Seoul, South Korea)
- 7) Goto N & Furukawa C: Literature Review on Research Trends and Issues Concerning Nurses Caring for Foreign Patients, 15th ICN&28th EAFONS, (Seoul, SK)

<助成金による研究活動>

- 1) 古川智恵: ラオスにおける周術期看護モデルの開発とその評価. 日本学術振興会科学研究費補助金 若手研究, 課題番号 20K19227 2020-04-01 - 2025-03-31
- 2) 古川智恵: ラオスにおける継続看護システムの構築とその評価. 日本学術振興会科学研究費補助金 基盤研究(C), 課題番号 23K09897. 2023-04-01 - 2026-03-31
- 3) 後藤直樹: 意思疎通が難しい在留外国人糖尿病患者に対して外来看護師が抱える困難, 2024年度聖泉大学研究助成.

4. 地域貢献

- 1) 古川智恵: 日本糖尿病看護・教育学会専任査読委員、日本がんチーム医療研究会世話人、南大阪皮膚排泄ケア研究会世話人、近江八幡市立総合医療センター看護研究指導、等
- 2) 馬場好恵: 2024年度 私立高等学校と聖泉大学の連携講座 講師(看護師)、模擬授業: 近江高等学校、キャリアアップ講座<看護研究>: 「文献検索の方法」「文献クリティーク」講師、看護学部広報委員会 オープンキャンパス
- 3) 岸本沙希: 近江八幡市立総合医療センター院内防災訓練参加、ナイチンゲール看護研究会事務局、地域連携交流センター学生防災士活動
- 4) 後藤直樹: 滋賀県学校協議会研修委員、滋賀県看護連盟湖東地区支部支部長、八幡高等学校連携講座「外科的手洗い」講師、模擬授業(近江高校)、ナイチンゲール看護研究会(広報担当)

1-3 老年看護学領域

1. 構成メンバー

古川智恵教授、中村陽子教授（～9 月末）、安田千寿准教授、木村美智子講師（9 月～）

2. 教育活動

1) 2 年次前期：老年看護論（1 単位）

高齢者を取り巻く社会状況や制度を中心にデータを用いながら概説し、現状から超高齢社会の課題を学生が関連付けながら考える内容とした。

2) 2 年次後期：老年看護援助論Ⅰ（2 単位）

高齢者の心身の特徴と日常生活の影響を概説した。教科書をもとに毎回のプリントを作成し、授業終了ごとに提出を求めることで知識の定着を図った。また高齢者が障害を持ちながら生活していくための退院支援や施設での生活支援について、実習指導者を招聘し看護の実際を伝えていただきケアの具体的なイメージにつながった。

3) 3 年次前期：老年看護援助論Ⅱ（2 単位）

高齢者の特徴を踏まえた看護を中心に看護過程の展開の学習を行った。また、グループワークを通して情報収集やアセスメントに必要な知識を深め、高齢者の疑似体験や看護技術の演習を行った。グループワークが中心であり、メンバー間での取り組み方の差に対応することが不十分であった。

4) 3～4 年次：老年看護学実習Ⅱ（3 単位）

3 週間のうち 2 週間は豊郷病院、ヴォーリズ記念病院、友仁山崎病院のいずれかの病院で実習を行った。実習非常勤助手 1 名が加わり、学生個々に看護展開の指導を行った。ICF の概念を取り込み、退院支援や高齢者独特の回復における概念に着目するよう記録等を改訂し、例示しながら指導を行った。最後の 1 週間は特別養護老人ホームで実習を行い、生活を営む場での看護について学修した。最終日には高齢者看護に重要だと思われたキーワードを学生が選択し、実習経験を通して学んだことをチームで討議する時間を確保した。高齢者看護の学びを各チームで資料にまとめ、目標達成を意識した成果物が完成し、学びの振り返りができた。

5) 4 年次：地域統合実習（2 単位）

学生 3 名の興味関心に合わせた実習計画を立て山崎病院で実施した。学生それぞれの課題に向き合い、看護師となる自分の成長をも意識することができた。

6) 4 年次：卒業研究（4 単位）

ゼミ生 3 名に対し高齢者における看護研究において個別対応で指導を行った。高齢者の社会背景や課題においては論文を通して最新のデータと向き合い自らのテーマに関連付けていった。3 名とも研究計画書を書き上げることができた。

7) 4 年次：国家試験対策

試験本番までのスケジュールを組み、計画的に問題を解くこととした。小テストを定期的に実施し、必修と一般・状況設定問題とに点数を記入して成果や弱点を把握した。2 名においては大学に通い互いに切磋琢磨していたが、大学に通わない学生の追跡が追いついておらず、国家試験対策委員会の指導が中心となった。

3. 研究活動

4. 地域貢献

- 1) 古川智恵：成人領域に掲載
- 2) 中村陽子
- 3) 安田千寿
 - ・ 令和6年度長浜市介護認定審査会委員
 - ・ 愛荘町介護保険運営協議会委員、愛荘町高齢者保健福祉計画及び介護保険事業計画策定委員会委員
 - ・ 地域包括支援センター運営協議会委員、指定地域密着型サービス運営委員会委員
 - ・ 滋賀県看護協会常任委員（学会委員）
 - ・ 滋賀県看護学校協議会理事（会計）
 - ・ 滋賀県レイカディア大学彦根校講師、草津校講師
- 4) 木村美智子
 - ・ 八幡高等学校連携講座 12/11（バイタルサイン担当）

1-4 母性看護学領域

1. 構成メンバー

小倉由紀子教授、花原恭子講師

2. 教育活動

- 1) **2 年：母性看護論**（15 時間 1 単位）では、今年度リプロダクティブヘルス・ライツ（性と生殖の健康・権利）とプレコンセプションケアを強調した幅広い内容で講義を進めた。また災害時の母子などの看護の理解を深める授業内容とし、アクティブラーニング（DVD の視聴から討議）を実施した。さらに講義の前後には事前・事後の課題に取り組み、質疑に関しては次の時間にレスポンスを返し、学びを深める機会をもった。
- 2) **2 年：母性看護援助論Ⅰ**（30 時間 2 単位）では、妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期における正常経過と看護について講義を行っている。妊娠経過に伴う保健指導内容、分娩経過と看護、産褥経過と看護、正常新生児の生理的变化と看護の視点について、母性看護学実習にも活用できるように経過一覧表の作成は今年度も継続して実施した。母性看護学の理解に繋げるようにビジュアルクラウドや視覚教材を使用しイメージ化をできるだけ図れるように試みた。また、母性看護技術論のⅡの演習の時間だけでなく、新生児の演習を授業中に取り入れ、一体化し実施した。
- 3) **3 年：母性看護技術論Ⅱ**（60 時間 2 単位）では、講義及び技術演習を含む内容は今年度も同様とした。同一の初産婦の paper patient は妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の事例のアセスメントから看護計画立案までの一貫した課題とした。技術演習では、妊婦健康診査でもこの事例を取り入れ、イメージ化しやすいようにした。必要な計測、NST モニターの装着と判読、産褥期の子宮底長測定、乳房管理、新生児の全身の観察と児の抱き方、沐浴を行った。全員が乳房モデルや子宮モデルを活用できるようにモデル数と時間配分に配慮し、目標達成に繋がった（乳房モデルは数を増やす予定）。さらに実習に繋げるために、周産期における異常を課題とした。
- 4) **3 年：母性看護学実習**（90 時間 2 単位）は、5 施設で病院実習を実施できた。学生 2 名 1 組で母子 1 名を受け持ち、病棟ではウェルネス志向型で看護過程を展開し、目標達成に繋がった。しかし男子学生 1 名がコロナに感染し追実習を行った。今回はうまく実習のローテーション内で追実習が実施できたが、今後は年度内に追実習を実施することは困難であると考ええる。また、今年度も学内で、受け持ち対象の教育プランを各自考え、ロールプレイを行い、学生間で共有し理解を深めることができ、学習効果が高かった。今年度は、帝王切開後の母子を受け持っても看護課程の展開を講義で取り入れていたため、大きな戸惑いや混乱はなかった。実習全体を通しておおむね目標達成に繋がった。
- 5) **4 年：地域統合実習**（90 時間 2 単位）では、実習施設以外の施設（総合周産期センター、産科クリニック、母子の広場等）で、ハイリスク母子、産後ケアをはじめとする母子の継続ケア、育児期の母子に関わることを目的として、各自の目標を設定し実施した。4 年次の卒論のことも念頭に実習を実践できた。実習期間は次年度増やす方向で検討が必要である。
- 6) **4 年：卒業研究**（4 単位）では、7 名のゼミ生それぞれのテーマに対しての研究指導を行った。母性看護学領域に即したオリジナルのテーマで発表もできた。
- 7) **4 年助産師学校受験対策**：助産課程進学希望者 2 名に進学受験指導や面接指導等を行い、全員、別科に進学することとなった。

3. 研究活動

<論文>

- 1) 上田明里、平田美紀、小倉由紀子：無痛分娩を選択した母親のメンタルヘルスに関する文献検討.
聖泉看護学研究. Vol14. 2025.3

<学会発表>

- 1) 小倉由紀子：看護系大学生における高齢者の性・セクシュアリティに関する講義前後での認識の変化
-KHCoder によるテキストマイニングを用いた分析-. 聖泉研究フォーラム 2024. 9
- 2) 花原恭子：滋賀県内の外国人妊婦の自動車乗車状況とシーベルト着用の実態調査. 第 60 回日本交通
科学学会誌、2024. 9

<助成金による研究活動>

- 1) 花原恭子：滋賀県内の外国人妊婦の自動車乗車状況とシーベルト着用の実態調査、2024 年度日本自動
車工業会委託研究

4. 地域貢献

小倉由紀子

- ◆ 滋賀県母性衛生学会 査読委員
- ◆ びわ湖東北部地域連携協議会 Next Step:未来を拓く 月経と性についてのリアルトーク
2024.7, 9, 10
- ◆ 岐阜県加茂高校性講話 講師
- ◆ 岐阜県加茂農林高校 保健講話 講師

花原恭子

- ◆ 滋賀県助産師会 理事 第一地区支部長
プレコンセプションケア検討委員会（しがプレコンノート作成）
教育委員会
100 周年記念誌委員会
- ◆ 滋賀県母性衛生学会 査読委員
- ◆ びわ湖東北部地域連携協議会 Next Step:未来を拓く 月経と性についてのリアルトーク
2024.7, 9, 10

1-5 小児看護学領域

1. 構成メンバー

平田美紀教授、村井博子講師

2. 教育活動

1) 2 年次前期：小児看護論（15 時間 1 単位）

子どもとはどのような存在なのか、子どもの権利や家族機能、子どもを取り巻く法律や施策について講義を行った。少子化が進んだ背景や、小児看護の変遷について講義を行い、小児看護の役割の考察につなげた。4 コマが終了した時点で小テストを行い定期試験に向け知識の確認を行った。

2) 2 年次後期：小児看護援助論Ⅰ（30 時間 2 単位）

子どもの成長・発達過程を理解するために、乳児期、幼児期前・後、学童期、思春期の各段階別に形態的機能や機能的発達の特徴などについて一覧表にまとめる課題を提示した。また、子どもの遊びの理解については、認知能力や運動能力などの発達に深く関連しているため、遊びの意義を理解したうえで発達段階に応じたおもちゃを作製し発表会を行った。症状別看護では、急性期によくみられる症状にあわせて、身体機能の特徴をふまえてアセスメントの視点が理解できるように講義した。

3) 3 年次前期：小児看護援助論Ⅱ（60 時間 2 単位）

小児看護の対象となる病気の子どもとその家族を理解するために事例を用いて看護展開を行った。事例展開は主に講義と個人ワークとし、看護上の問題の抽出及び看護計画の立案までを課題とした。さらに、看護過程から抽出した看護計画とプレパレーションの演習がつながるように、事例患児の個別性からプレパレーションツールを作成（個人課題）する演習を行った。技術演習については小児特有のバイタルサイン測定や点滴固定などを組み込み、モデル人形を使用しながら少人数グループで実施した。

4) 3 年次（後期）～4 年次（前期）：小児看護学実習（90 時間 2 単位）

健康な子どもの成長・発達と地域で暮らす障害をもつ子どもを理解するために 2 か所の保育園と特別支援学校にて、各 2 日間ずつ実習を行った。入院している子どもと家族への看護を理解するために長浜赤十字病院（1G）、彦根市立病院（5G）、近江八幡市立総合医療センター（5G）、滋賀県立小児保健医療センター（2G）の 4 か所で実習を行った。

5) 4 年次：地域統合実習（2 単位）

ゼミ 8 名が個別で興味・関心にあわせた実習目的を考え実習計画書を作成した。学生の目的に沿うように施設を調整し、野洲養護学校、近江八幡市立総合医療センター、つくし保育園で実習を行った。各施設の子どもに応じた援助や指導が実施できるように事前にプレパレーションツールや基本的な生活習慣確立に向けた紙芝居を作成した。

6) 4 年次：卒業研究（4 単位）

8 名のゼミ生が個別で研究計画書を作成するために、関心のある出来事や疑問に感じたことなどから研究目的を定め、文献クリティークを繰り返し小グループおよび個別にて指導・助言を行った。また、研究計画書に基づき、研究依頼書や同意書などの必要書類について指導し作成した。全員が研究計画書の提出ができ、学内看護研究発表会にて発表した。

7) 4 年次：国家試験対策

過去問を中心にゼミで勉強会を行い、学習方法の修得につなげた。また模擬試験の結果から面談を行い、個別対応をした。

3. 研究活動

<論文>

- 1) 平田美紀, 戸田由美子, 富川拓, 石井薫. (2024) : 聖泉研究フォーラムの活動報告と今後の課題, 聖泉看護学研究, 75-79.
- 2) 脇弥生, 平田美紀. (2024) : 臨床看護師が実践する小児看護における子どもの権利擁護に関する文献検討, 聖泉看護学研究, 53-62.
- 3) 上田明里, 平田美紀, 小倉由紀子. (2024) : 無痛分娩を選択した母親のメンタルヘルスに関する文献検討, 聖泉看護学研究, 63-73.
- 4) 村井博子, 流郷千幸. (2024) : 健常児の母親との比較でみる幼児期後期における SGA 性低身長症の母親の育児困難感, 日本小児看護学会誌, 33, 185-192.

<学会発表>

- 1) 平田美紀, 古株ひろみ, 鈴木美佐, 村井博子. (2024) : テーマセッション 12, 医療処置を受ける子どもの苦痛緩和を目指した取り組みについて～PMEC スタッフ研修会の話題提供から～, 日本小児看護学会第 34 回学術集会 プログラム集, 23.

<助成金による研究活動>

- 1) 文部科学省研究費助成事業 基盤研究 (C) 2024～2027 年
平田美紀:ICT を活用した多職種協働プレパレーション研修プログラム開発(科研課題番号:24K13993)
- 2) 文部科学省研究費助成事業 基盤研究 (C) 2024～2027 年
村井博子 (研究分担者) : ICT を活用した多職種協働プレパレーション研修プログラム開発 (代表者: 平田美紀 科研課題番号: 24K13993)
- 3) 文部科学省研究費助成事業 基盤研究 (C) 2023 年～2026 年
村井博子 : 発育が追いつかない子どもを養育する家族の主体性を育むケアプログラム (FCPS) の開発 (科研課題番号: 23K10122)
- 4) 文部科学省研究費助成事業 基盤研究 (C) 2023 年～2026 年
平田美紀 (研究分担者) : 発育が追いつかない子どもを養育する家族の主体性を育むケアプログラム (FCPS) の開発 (代表者: 村井博子 科研課題番号: 23K10122)
- 5) 文部科学省研究費助成事業 基盤研究 (C) 2023 年～2026 年
平田美紀, 村井博子 (研究分担者) : 予防接種を受ける子どもの「親のためのプレパレーションガイド」の開発 (代表者: 流郷千幸 科研課題番号: 23K10065)
- 6) 文部科学省研究費助成事業 基盤研究 (C) 2021 年～2024 年
平田美紀, 村井博子 (研究分担者) : 食物アレルギー児の社会的集団生活スキルの獲得過程の解明と支援プログラム構築 (代表者: 鈴木美佐 科研課題番号: 21K10927)

4. 地域貢献

- 1) 平田美紀
 - ・日本小児看護学会誌編集委員会査読員
 - ・彦根市子ども・若者支援地域協議会代表者
- 2) 村井博子
 - ・長浜北星高校模擬授業

1-6 精神看護学領域

1. 構成メンバー

戸田由美子特任教授、石井薫講師、佐伯興平助教

2. 教育活動

1 年：人間関係論（戸田） 講義内容としては、看護師として重要である援助的コミュニケーションのあり方を理解するため、manaba を中心に対人関係における自分自身のコミュニケーションの傾向を再考察できるような課題構成を行った。

2 年：精神看護論（戸田） 精神看護学において基礎となる疾患や社会復帰に向けての活動や、精神障害者の処遇や歴史的背景を踏まえた講義を行った。

精神看護援助論Ⅰはオムニバスで開講した（戸田、石井、佐伯）。精神障害を抱えて生きることの意味、精神科における行動制限やリスクマネジメントにおける現状と課題、ストレングスに着目した講義を行い、精神障害を持つ当事者と当事者を支える家族や他職種による講義の場を設定することで、精神障害者を地域で支えるサポート・サービスの重要性の理解を促した。

3-4 年：精神看護援助論Ⅱはオムニバスで開講した（戸田、石井、佐伯）。看護過程を展開する理論としてオレムアンダーウッドのセルフケア不足看護理論を中心に講義を行った。また、病院から地域へと転換されている精神保健の流れから、ストレングスモデルを使って患者を理解するための講義と演習を取り入れた。

精神看護学実習は、水口病院 2 病棟（亜急性期病棟・回復期病棟）、豊郷病院 2 病棟（慢性期病棟・急性期病棟）で実習を行なった。2025 年 2 月 25 日以降の 7 クール目、8 クール目の豊郷病院での臨地実習では、covid-19 感染拡大に伴い、病棟実習期間を（2 週間→1 週間）と期間短縮した。7 クール目の K グループは、2 週目の病棟実習を学内実習に振り替え、学生記載のプロセスレコードを用いた演習、映画「ビューティフル・マインド」視聴後ディスカッションを行い、学びを共有した。8 クール目の F グループは、2 週目に受け持つ患者の情報を提供していただき、1 週目の半日を病院内会議室にて電子カルテからの情報収集、半日を看護の方向性確認のケースカンファレンスを行い指導者から助言をいただいた。それ以外の 1 週目は学内にてアセスメントと計画立案を行い、2 週目は病棟にて予定通り看護の実践を行った。水口病院、豊郷病院ともに学生の知識と実力が統合できるよう配慮していただき 8 クールの病棟実習を行えた。地域における精神障害者の社会資源として、精神障害者通所施設就労継続支援 B 型作業所モコハウス・ワークセンター絆（障害者支援センターそら）での実習を行い、就労支援、相談支援の理解を深めることができた。学内での実習最終日の午前中、各自の受け持ち患者への看護展開からの学びに加え、グループ毎に実習病棟の特性・入院患者の入院形態の内訳の説明等を発表し、閉鎖病棟と開放病棟のハード面とソフト面の違いの理解を深め、共通認識を深める指導を取り入れた。

カンファレンスは、病棟指導者に参加してもらい毎日 30 分程度行った。実習 1 週目は、患者との距離感をつかめず、患者と距離を置きすぎたり、患者の妄想発言を肯定しながら訴えを傾聴し、患者の妄想を強める関わりをするなど、学内での学びを活かすことができない学生が多かった。しかし、プロセスレコードの活用により自身のコミュニケーションの傾向を理解し、関わり方を改善できた。また、患者のストレングスに着目した援助を実施することができた。

4 年：地域統合実習は、長浜日赤病院訪問看護にて 3 名、水口病院 2M 病棟にて 1 名、4M 病棟にて 1 名の学生が実習を行った。学生が学びたい内容を教員が確認し、実習計画書作成と実習計画のプレゼンテーション内容を学内で指導した後、初の試みとして学生自身が看護部長にアポイントメントを取り、病院で実習計画内容を発表し、病院側と実習内容を調整する機会を持たせた。実習前から主体的に

実習計画を行うことで、実習への取り組み姿勢に良い効果が得られ、自傷・他害リスクのある患者の看護、入退院を繰り返す患者への服薬アドヒアランスを高める介入、訪問看護師と病棟看護師の連携など各学生の目的に沿った学びの機会を得ることができた。

卒業研究は、それぞれの研究テーマに沿った研究指導を行い、自殺リスクの高い患者への看護、入院中の患者が心理的不快を抱く看護師の対応、共依存状態の母子の自立に向けた訪問看護技術、超長期入院統合失調症患者と家族をつなぐ看護、患者－看護師関係における沈黙の捉えと関わりなどを主体的に学習することができた。

3. 研究活動

<論文>

平田美紀, 戸田由美子, 富川拓, 石井薫. : 聖泉研究フォーラムの活動報告と今後の課題, 聖泉看護学研究, Vol. 14, 75-79, 2025.

佐伯興平: 看護師の困難体験に関する質的研究～困難克服モデルの創出～, 聖泉看護学研究, Vol. 14, 11-21, 2025.

<助成金による研究活動>

1) 文部科学省研究費助成事業 基盤研究 (C) 2024～2026 年

石井薫 (研究代表者) : 認知症者の攻撃的行動予兆サインを読み取る能力育成プロトコルの作成 (科研課題番号 : 24K13816)

4. 地域貢献活動

1) 石井薫

- ・滋賀県看護学校協議会令和 6 年度研究会
- ・認知症ケアに対する研修会 : ヴォーリズ老健センター

2) 佐伯興平

- ・2024 GRAN TURISMO D1 GRAND PRIX SERIES Rd. 1&2 OKUIBUKI Medical Staff
- ・DoRiDoRe 2024 Medical Staff
- ・滋賀県看護協会 第六地区支部 (協力委員)

1-7 公衆衛生看護学領域

1. 構成メンバー

安孫子尚子教授、後藤則子講師、澤村歩美助手

2. 教育活動：

<看護学部>

1年生：「公衆衛生看護論（必修科目1単位、8回）」「ヘルスプロモーション活動論（必修科目1単位、8回）」

公衆衛生看護の理念や活動の歴史、対象や看護の場や方法について教員の事例も用いながら、学生が公衆衛生看護に対する具体的なイメージを持てるように講義を行った。またヘルスプロモーション活動論では、個人・家族・集団の健康に関する現状や課題に基づき、保健師活動の基本的な考えである生活の支援、予防の視点で行う健康教育について諸理論を用いて説明を行った。

2年生：「公衆衛生看護活動論（必修科目2単位、15回）」

公衆衛生看護の理念や活動の歴史、看護の対象に対する活動の展開について講義を行った。母子（親子）、成人、高齢者のライフステージに沿った活動や、産業や学校での保健活動、感染症、難病、障がい者対策等、人生全体にかかわる課題を解決する支援について保健師活動を中心に具体的な事例を提示しながら講義を行った。

3年生：「公衆衛生看護活動展開論Ⅰ（新カリキュラム、保健師教育課程必修科目2単位、15回）」

保健師が地域住民に行う健康支援について母子の新生児訪問事例を用いた家庭訪問援助計画作成と彦根市民を対象とした健康教育の企画・実施の演習を行った。個人で取り組む家庭訪問援助計画作成は、教員が授業毎に学生の取り組み内容に助言を行うことで学習目標を達成できた。やグループで取り組む健康教育の演習では、彦根市の健康関連データ（高齢者保健福祉計画、健康づくり推進計画、データヘルス計画など）から地域の課題を見出せるように工夫し健康教育の企画書、及び指導案を作成させた。健康教育は彦根市社会福祉協議会の協力を得て彦根市内6か所の住民組織活動の場に出向き実施し、企画から実施、評価までの一連の流れを経験することにつながった。

4年生：「公衆衛生看護学実習」「保健師国家試験対策」

保健師教育課程の29名は県内保健所（長浜、彦根、甲賀）、市町保健センター（長浜市、米原市、彦根市、湖南市、甲賀市）、地域包括支援センターで「公衆衛生看護学実習」を行った。

家庭訪問では初回訪問が保健師の同行、継続訪問は保健師の同行または学生のみで実施した。学生の各訪問事例については家庭訪問報告会を行い、学生が個別事例から地域課題へのつながりを意識させた。学生は実習前後の発表会の準備から実施に向けた地域診断の取り組みによって地域特性を理解した。また、同じ時期に別の実習地で実習を行うグループが相互に学びを深められるように、報告会を実施した。実習での健康教育や地域診断というグループでの取り組みは、学生自身が自分の役割を果たし、建設的に話し合い、グループダイナミックスを学ぶ機会となった。

「保健師国家試験対策」では、試験出題基準を中心に専任教員による小テストと解説で知識定着、模擬試験3回で苦手分野の抽出とその対策を考える機会をもった。例年と比較すると知識定着、苦手克服が十分ではない学生の割合が多く、過去模試や予想問題などを活用しながら学生への対応を行った。

公衆衛生看護学ゼミナール：「卒業研究」「地域統合実習」

「卒業研究」では、5名が研究計画作成に取り組んだ。研究方法は、質的研究、対象は保健師・看護師・介護者家族、分野は多岐にわたり、学生が学んだ4年間に持った疑問を明らかにする手がかりをつかむことができた。「地域統合実習」では、彦根市の社会福祉協議会が実施する事業かつ公衆衛生看護学実習で学ぶ機会が少ない地域活動に参画し取り組んだ。

<人間学部>

2 年生：後藤則子講師「保健管理学」

健康運動実践指導者認定でもある授業では、健康の定義やわが国で取り組まれている健康づくり施策、施策の具体的な実践について説明した。

<その他>

看護学部授業科目：安孫子尚子教授「防災論（1 年生必修科目、15 回、防災士養成講座、先取り履修科目）」「災害看護論（4 年生選択科目、1 単位、8 回、オムニバス）」を担当した。

3. 研究活動

<論文および報告書>

- 1) 澤村歩美, 安孫子尚子. (2025). 保健師のデータ活用に関する文献検討, 聖泉看護学研究, 14, 45-52.
- 2) 安孫子尚子, 澤村歩美, 後藤則子. (2025). 公衆衛生看護学における地域貢献活動, 聖泉看護学研究, 14, 81-86.

<助成金による研究または地域貢献活動>

- 1) 西山ゆかり, 流郷千幸, 安孫子尚子, 川嶋元子, 中島真由美, 小林菜穂子: 学生から新人看護師への役割移行プロセスにおける社会人基礎力育成プログラム開発. 日本学術振興会科学研究費補助金 基盤研究 (C) (課題番号 21K10591). 2021 - 2024.
- 2) 澤村歩美, 後藤則子, 安孫子尚子: びわ湖東北部地域連携協議会「SDGs でつなぐ学生の地域連携プロジェクト」～がん患者に対する支援～学生が簡単に制作できる「タオル帽子」～
- 3) 安孫子尚子, 後藤則子, 澤村歩美: びわ湖東北部地域連携協議会「(WG-B) 地域コミュニティ活性化事業」～光と色でつながるびわ湖東北部地域の健康づくり～
- 4) 安孫子尚子, 後藤則子, 澤村歩美: びわ湖東北部地域連携協議会「(WG-C) 地域を担う次世代の育成」～未来にはばたく看護職の人材育成～

4. 地域貢献活動

1) 安孫子尚子

- ・一般社団法人全国保健師教育機関協議会機関紙「保健師教育」査読委員
- ・湖東圏域看護ネットワーク推進会議委員
- ・彦根市高齢者保健福祉協議会会長/彦根市健康づくり推進協議会会長
- ・彦根市立病院倫理委員会委員
- ・いずみ健やか塾（自主活動グループ）への活動支援
- ・ピンクリボンひこね実行委員会監査

2) 後藤則子

- ・滋賀県精神医療審査会（6 回／年）、精神保健法第 38 条の 4 の規定に基づく退院等の請求にかかる面接調査 2 名、法改正に伴う変更周知のための滋賀県医療審査会全大会（1 回／年）
- ・滋賀県介護保険審査会（不服申し立てがある時／年）
- ・「保健師初任者研修会」講師（高島保健所・彦根保健所）

1-8 地域・在宅看護学領域

1. 構成メンバー

森本喜代美教授、 窪内敏子准教授、村上美潮助手

2. 教育活動

1) 2 年次（前期）：地域・在宅看護論

全 8 回の内容は、地域在宅看護論を学ぶ必要性、取り巻く社会、社会制度を中心に講義した。各項の終了後に manaba を利用し、小テストを実施し、その解説を加えた。また地域包括ケアシステムの理解に注力する内容とした。授業教材は現場実践が理解しやすく、さらに感性が育つよう、相応しい医療モデルビデオ等を取り入れた。

2) 2 年次（後期）：地域・在宅看護援助論 I

毎授業終了後、復習問題を提示し、授業の振り返りと学習確認を行った。また事例を用いて対象へのアプローチを探索する演習を行い、授業内でフィードバックした。外部講師として「精神障害者への訪問看護実践」「小児在宅ケア」「在宅医療」の実践者を招き多くの体験を用いて講義を受ける機会を提供した。学びをレポートし、manaba に提出とした。その中で自己の課題への気づきと同時に、知識の蓄積、拡大を促した。また、適宜、視覚的教材を取り入れ在宅療養者のイメージができるように教授した。

3) 3 年次（後期）：地域・在宅看護技術論 II

看護過程においては、個人ワークで行った事例をグループワークでさらに深めるように授業設計を行った。個人ワークに対しては、適宜解説を加え、次の段階へ進めるよう指導し、在宅看護過程の特徴の理解が深まるようにした。また演習では、訪問看護ステーションでのマナー、経管栄養（胃瘻管理・注入）、排便ケア（摘便・おむつ力学）吸引法の演習を行い、在宅看護の特性と役割の認識向上を高めた。さらに、地域包括支援センターの役割や認知症療養者の地域の取り組みを実務家教員から教授した。

4) 3 年次（後期）：地域・在宅看護学実習

学内実習 3 日間（オリエンテーション、振り返り、まとめ）、地域包括支援センター実習 2 日間、訪問看護ステーション実習 5 日間の実習構成で行った。訪問看護実習においては、多くの同行訪問を通して、在宅で暮らす療養者の生活、訪問看護師の役割について学ぶことができた。地域包括実習では介護保険制度のもと実践されている地域の高齢者支援についてその実際を知ることができ、地域で暮らす高齢者と家族のニーズについて考えることができた。

5) 4 年次（通年）：ゼミ

卒業研究は、学生の関心のあるテーマを尊重し、内容を深め、計画書作成まで全員が到達した。地域統合実習は「看護小規模多機能型施設」と「訪問看護ステーション」で実施した。地域で療養者を支える仕組みと高齢者や小児、慢性疾患を持つ療養者支援について地域での看護活動を学んだ。また、訪問看護ステーションでは、学生の関心のある医療的ケアの実施、緩和ケア、ストーマ造設後の療養者の事例を訪問させていただき、個別性のある支援方法について深めることができた。国試対策は学生の個別性に応じ、過去問題の提示、学習会の開催、指導を行った。

3. 研究活動

< 著書 >

< 論文 >

< 学会発表 >

- 1) 森本喜代美, 赤澤千春, 新井香奈子, 荒川千登世. (2024) 在宅高齢者の続発性リンパ浮腫ケアを実践する医療職の連携に対する思い, 第 50 回日本看護研究学会学術集会, 奈良.
- 2) 森本喜代美, 新井香奈子, 森本安紀. (2024) 介護支援専門員が捉える独居高齢者の健康悪化の背景 (第一報), 第 44 回日本看護科学学会学術集会, 熊本.
- 3) 新井香奈子, 森本喜代美, 森本安紀. (2024) 訪問看護師が捉える独居高齢者の健康悪化の背景 (第一報), 第 44 回日本看護科学学会学術集会, 熊本.
- 4) 森本安紀, 新井香奈子, 森本喜代美. (2024) 訪問介護士が捉える独居高齢者の健康悪化の背景 (第一報), 第 44 回日本看護科学学会学術集会, 熊本.

< 助成金による研究活動 >

- 1) 森本喜代美 (研究代表者): 在宅高齢者の続発性リンパ浮腫ケアにおける医療職連携モデルの構築 (課題番号 21K17445), 2020-2023.
- 2) 森本喜代美 (研究協力者): 地域で (なんとか) 暮らしを成り立たせている独居高齢者の別居家族による「遠距離介護」ケアモデルの検討 公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団 2022 年度 (前期) 公募助成事業 (研究代表者: 新井香奈子) の助成

4. 地域貢献

森本喜代美: 滋賀県看護協会 新卒訪問看護師育成プログラムによる育成支援体制の検討委員

森本喜代美: 第 50 回日本看護研究学会学術集会 実行委員

森本喜代美: キャリアアップ講座 「研究計画書の作成」「研究倫理について」講師

森本喜代美: 市立野洲病院 研究支援

森本喜代美: 女子サッカー部 副部長

窪内敏子: 近江八幡総合介護市民協議会専門委員

窪内敏子: 八幡高校高大連携「高齢者理解」 9 月 24 日 2024

窪内敏子: 彦根翔西館高校模擬授業 11 月 7 日 2024

村上美潮: 看護学部広報委員会 オープンキャンパス

2. 委員会活動報告

2-1 教務委員会

1. 構成メンバー

- 1) 委員長：古川智恵
- 2) 委員：窪内敏子、村井博子、石井薫、川端綾野、木村美智子、岩渕亜貴子、坂内久美子

2. 所掌事項（看護学部教務委員会規程）

- 1) 試験に関する業務
 - (1) 定期試験日程調整 (2) オリエンテーション (3) 定期および再試験の依頼
 - (4) 試験結果一覧作成 (5) 成績通知 (6) 進級判定資料作成 (7) 試験監督の調整
- 2) 学年暦の作成

3. 委員会活動

回数	年 月 日（曜日）	主な議題、内容等（毎回：各ワーキング報告）
1	2024 年 4 月 10 日（水）	1. 2024 年度の役割分担について 2. 旧カリと新カリの読み替えについて 3. 教務ガイダンス、履修登録について 4. 2024 年度（前期）公開授業について、など
2	2024 年 5 月 8 日（水）	1. 第 1 ターム試験について 2. 第 2 ターム試験について 3. ファイナル試験について 4. 卒業研究要項の検討、など
3	2024 年 6 月 5 日（水）	1. 第 1 ターム試験について 2. 第 2 ターム試験について 3. 2024 年度（前期）公開授業について 4. フレッシュゼミについて、など
4	2024 年 7 月 3 日（水）	1. 第 2 タームの試験について 2. ファイナル試験について 3. 後期時間割（案）について 4. 電車の遅延時の対応について 5. ICT 授業の対応について、など
5	2024 年 8 月 22 日（金）	1. 前期定期試験結果について
6	2024 年 8 月 28 日（水）	1. 前期試験について 2. 2024 年度（後期）公開授業について 3. 後期時間割について 4. 外部講師の依頼方法について 5. ICT 授業の対応について、など
7	2024 年 9 月 26 日（木）	1. 後期授業について 2. 2024 年度（後期）公開授業について 3. 第 3 タームの試験についての調査について 4. 履修要項の見直しについて 5. 外部講師の依頼等の手続きについて、など
8	2024 年 10 月 15 日（火）	1. 後期授業について 2. 2024 年度（後期）公開授業について 3. 第 3 タームの定期試験 4. 外部講師の依頼等の手続きについて、など
9	2024 年 11 月 6 日（水）	1. 後期授業について 2. 2024 年度（後期）公開授業について 3. 第 3 タームの定期試験 4. 卒業研究について、など
10	2024 年 12 月 2 日（水）	1. 定期試験について 2. 卒業研究（2025 年度）について 3. 特別講師について 4. シラバス作成について 5. 学年暦について、など
11	2025 年 1 月 8 日（水）	1. 定期試験について 2. 定期試験後のガイダンスについて 3. 旧カリ学生の対応について 4. シラバスチェックについて 5. 履修要項の見直し、など
12	2025 年 2 月 3 日（水）	1. 定期試験について 2. 単位認定について 3. 領域別実習の単位認定について

		4. 令和 7 年度科目担当者について、など
13	2025 年 2 月 18 日（火）	1. 卒業判定について 2. 再試験について 3. 新 4 年生の選択科目の単位確認 4. 学校法人聖泉学園中期目標・中期計画について 5. ガイダンス担当者について、など
14	2025 年 3 月 3 日（月）	1. 看護師の卒業までの技術到達度（案）について 2. 国スポのボランティアについての対応について、など

4. 委員会総括

今年度から導入された ICT を活用した授業について、教員や学生の準備が十分にできていなかったが、徐々に manaba を活用し定着していった。しかしながら、一部の学生からは否定的な意見もあり、学生と交流会を企画するなど、ICT 教育の趣旨を理解してもらう取り組みを行った。

- 1) フレッシュゼミについて、教務委員会が主体となり、1 年生の担任と合同で行うこととなった。そのため、1 年生の習熟状況が理解できた。また、タクナル以外でも「レポートの書き方」「ノートの取り方」などの授業を取り入れて、ICT を活用した授業につながる運営ができた。
- 2) キャリア教育について、学生委員会に移動したことから、講師依頼など運営で教務委員会と連携できていない学年があった。キャリア教育は、必修科目であることから、教務委員会が掌握した方が教務課と連携して進められるのではないかという結論になった。
- 3) 学生の学修に対する取り組みとして、遅刻の多さが目立った。これまでの規定では、遅刻はペナルティーがないことから、常習的に遅刻しているようであった。遅刻は、授業運営にも悪影響となっていることから、規定を見直し、後期から「遅刻または早退 3 回につき 1 回の欠席とする」を取り決めた。その結果、遅刻または早退する学生が激減した。
- 4) 再試験の受験資格について、履修要項では、「再試験は行いませんが、担当教員の許可が得られれば、再試験を実施することがあります」の文言があるが、科目担当者が、拡大解釈をし、再試験を行うことについて独自のルールを設定していた。再試験については、「実施する」または「実施しない」の議論にとどまっていたため、今後、科目責任者の責任に範囲について検討する必要がある。
- 5) シラバスについて、教務委員会でシラバスチェックをした後に科目責任者が、その内容を自由に変更していた。そのため、チェック機能が果たせていなかったことから、シラバスチェック後の変更可能な項目、あるいは、内容の変更後のチェック機能について取り決めが必要である。
- 6) ファイナル試験について、規定になく、学内の申し合わせ事項となっていた。規定に照らし合わせて今年度から実施しないこととした。
- 7) 追試験を受験できなかった場合の対応として、履修要項では、「事象発生後ただちに」となっているが、1 週間近く手続きができない事象が発生した。そのため、規定を見直し「翌日 9 時まで」に修正した。
- 8) 新カリキュラムの領域別実習について、実習調整委員会と調整し、令和 7 年度から 3 月中に領域別実習を終えるようにした。

5. 次年度の課題

- 1) ICT を活用した授業のあり方について、学生の習熟状況を見極めながら進めていく。
- 2) 国スポ・障スポについて 100 人規模で学生ボランティアを派遣することになっていることから、授業保障について検討が必要である。
- 3) 学習支援が必要な欠席が目立つ学生、GPA が低い学生について学修支援を教務委員会が中心となって取り組んでいく。
- 4) 履修要項に記載されている文言を見直し、教員と学生が共通理解できるように検討していく。

以上、委員会活動の 1 年間の活動を振り返り、内部質保障のための自己点検評価を行い、委員会として機能していることを確認した。

2-2 学生委員会

1. 構成メンバー

- 1) 委員長：安孫子尚子
- 2) 委 員：小倉由紀子，馬場好恵(1)，石井薫(2)，花原恭子(3)，村井博子(4)（学年）

2. 所掌事項

- 1) 学生委員会の開催
- 2) 学年担任と学生指導・支援及びチューターとの連携
- 3) 長期休暇前の生活指導
- 4) 学生課との連携協力
 - ①学生表彰 ②就職支援 ③学友会 ④新入生オリエンテーション
 - ⑤奨学金 ⑥クラブ ⑦学生の生活・学習環境 ⑧学生便覧
- 5) 万聖祭への参加協力
- 6) 卒業パーティへの協力
- 7) 全学学生委員会との連携協力
- 8) 教育後援会への出席(委員長)

3. 委員会活動

回数	年 月 日	議題，内容等
毎回		全学学生委員会報告 担任報告(気になる学生，学習支援状況)
1	2024 年 4 月 1 日(月)	1. 学生委員会規程(2024 年 4 月 1 日改正)確認 2. 学生委員会組織図 3. 担任(チューター)業務の確認 4. 各学年オリエンテーション
2	2024 年 4 月 15 日(月)	1. 各学年オリエンテーションの振り返り 2. 年間のチューター面談 3. キャリア教育(シラバス内容)
3	2024 年 5 月 13 日(月)	1. チューターによる面談状況について 2. 学修支援(案)(1 年生) 3. 新入生歓迎会/2023 年度卒業パーティ(振り返りと課題)
4	2024 年 6 月 10 日(火)	1. 学修支援の取り組み(各学年) 2. 茶道部の実施場所や講師料に関する意見
5	2024 年 7 月 1 日(月)	1. 前期試験終了後学年ガイダンスについて 2. 環びわ学生支援事業(MLGs) 学生参加
6	2024 年 8 月 20 日(火)	1. 学修支援/学年の取り組み 2. 万聖祭について(取り組みと課題) 3. 卒業研究発表会
7	2024 年 9 月 26 日(木)	1. 学生の面談にかかわるフロー図 2. 全学学生委員会依頼(全国交通安全運動教員配置)
8	2024 年 10 月 23 日(水)	1. 学生の面談にかかわるフロー図(継続検討) 2. 万聖祭に向けた学年企画，教員企画
9	2024 年 11 月 19 日(火)	1. 万聖祭の振り返り

		2. 全学学生委員会報告(万聖祭, 学生便覧について)
10	2024 年 12 月 16 日(月)	1. キャリア教育 I・III 2. 卒業パーティ(教員への依頼) 3. 2025 年度予算(案) 4. 全学学生委員会(クリスマスイベント/学生便覧)
11	2025 年 1 月 29 日(水)	1. 学生委員会規程改正 (案) 2. 学生委員会組織図(担任/チューター制) 3. 学生の面談にかかわるフロー図 (確認) 4. 卒業パーティについて
12	2025 年 3 月 11 日(火)	1. 卒業パーティについて 2. 2025 年度 1 年生学外オリエンテーリングなど 3. 2024 年度の総括 4. 4 月の学年オリエンテーションについて

4. 委員会総括

1) 学生委員会組織について

委員会では、学生面談にかかるフロー図, 組織図, 委員会規程の変更にかかる検討を行った。学生面談にかかるフロー図の検討では 2024 年度に行われた面談は学部長(教務委員長), 担任長または担任で行われており, 現状に沿った内容に修正した。また, 担任とチューターの役割については各役割遂行, 他委員会組織との情報共有などに課題があったこと, 2024 年度に受審した大学機関別認証評価においても指摘があったことから 2025 年度からはチューター制の廃止に伴う担任のみの組織に変更を行った。加えて, 委員会規程に就職支援を追加し, 学修支援については教務委員会の業務となったため削除することとなった。

2) 担任を中心とした学修支援とイベント(学内オリエンテーリング, 年間学年交流)

1 年生のオリエンテーリング(4/4)は一部タクナル(チームビルディング)を取り入れ, 大学周辺を探索しグループによる取り組みを行った。3 年生では学年交流を目的としたバレーボール大会を行った。2025 年度についても各学年における交流の機会をもつための予算を計上した。

3) 学友会活動について

今年度の学友会活動は, 2 年生を中心に新入生歓迎会(4/24), 納涼祭(7/8), 万聖祭(11/9), クリスマス会(12/19)の企画, 準備, 当日運営であった。学友会に参加する学生数はあるものの人間学部と看護学部, 1 年生と 2 年生の学年間の連絡調整やスケジュール管理など課題は残った。2025 年度も万聖祭は 1 日開催(11/8)の予定である。学友会内の学生同士の定期的な交流を行いながら進めて行く予定である。

4) 学生を中心としたイベント企画とその実施(卒業パーティ)

4 年生の卒業パーティ委員と担任は, 学位記授与式(3/15)終了後, ホテルニューオーミに移動し, 卒業パーティを実施した。学位記授与式のタイムスケジュール, 移動手段と学生課との連携, 4 年生の欠席者に対する対応には課題が残る。

以上, 委員会活動の 1 年間の活動を振り返り, 内部質保障のための自己点検評価を行い, 委員会として機能していることを確認した。

2-3 国家試験対策委員会

1. 構成メンバー

- 1) 委員長：小倉由紀子
- 2) 委員：西山ゆかり、後藤則子（保健師）、佐伯興平、岸本沙希、村上美潮、中村有希

2. 所掌事項

- 1) 国家試験対策に関すること
- 2) 看護師国家試験に関すること
- 3) 保健師国家試験に関すること

3. 委員会活動

回数	年 月 日	議題、内容等
1	2024 年 4 月 1 日（月）	・国家試験保護者会の開催にむけて ・委員会体制について ・国家試験対策年間計画について ・国家試験保護者説明会（4/20）について ・既卒生の状況と担当教員
	2024 年 4 月 22 日（月）	・保護者説明会開催・振り返り
2	2024 年 4 月 25 日（木）	・国家試験対策ガイダンスの打合せ ・学内強化対策における参考書等について ・低学年国試対策について
3	2024 年 5 月 21 日（火）	・6 月強化対策の状況把握 ・低学年対策（夏季休暇の課題）について ・既卒生の状況確認（本学での受験希望等）
4	2024 年 7 月 10 日（水）	・夏季休暇課題の問題作成と提出および対応 ・国試ガイダンスについて ・夏季休暇中の 4 年生のスケジュールと対策 ・強化対策を経て振り返りとその後の支援
5	2024 年 8 月 27 日（火）	・卒論提出時期までの国試対策について ・国試ガイダンスの振り返りと欠席者対応
6	2024 年 9 月 25 日（水）	・低学年模試自己採点結果 ・第 1 回模試結果・返却・強化対策 ・保健師対策
7	2024 年 10 月 16 日（水）	・必修模試（10/3）採点結果 ・成績低迷者と講座出席状況、対策 ・低学年夏季休暇課題の処理 ・願書提出・確認
8	2024 年 11 月 19 日（火）	・第 2 回国試模試の結果・返却・強化対策 ・出願ガイダンス（11/5）にむけて ・多賀大社の参拝、激励会について ・次年度国試対策業者の選択について（大学で決めるが、一応今年度のままで予算他記載している）
9	2024 年 12 月 19 日（木）	・メディカコンクールの結果・返却・強化対策 ・年末年始の学習支援 ・次年度予算案作成
10	2025 年 1 月 10 日（金）	・第 3 回国試模試の結果・返却・強化対策 ・多賀大社参拝について ・受験票配布（1/29）国試自己採点（2/18）日の確認
	2025 年 1 月 23 日（木）	・多賀大社参拝（学生 26 名、教員 5 名参加） ・合格祈念グッズの袋詰め
11	2025 年 1 月 29 日（木）	・受験票配付 ・激励、合格祈念グッズ渡し
	2025 年 2 月 14 日（金）	第 111 回保健師国家試験
	2025 年 2 月 16 日（日）	第 114 回看護師国家試験
12	2025 年 2 月 18 日（火）	・国試自己採点結果・状況確認 ・免許申請手続きガイダンス
	2025 年 3 月 24 日（月）	・国試合格発表の確認と就職先への報告（学部長へ）

4. 委員会総括

- 1) 国家試験サポートについて

スタート時点では大学側から、業者による国試対策の必要性等、諮問があったが、昨年度に引き続き東京アカデミーのサポートを受け対策講座及び模試を実施した。東京アカデミーの対策講座の参加率は、留年生 2 名の参加率は悪かったが、概ね 90%～97%であった。

1 年間東京アカデミー 3 回、メディカコンクール 1 回の模試を実施した。委員会メンバーの減少や教員の減少により、実習で不在のことが多くなり、結果的に対応が手薄となったことから依頼してよかったと考える。今年度は、例年より全体のレベルが低く、よくできる学生とできない学生の 2 極化が目立った。松本先生は当校のレベルや学生の状況に関して熟知されており、内容に関しては、できる学生には分かりやすいと好評であったが、できない学生にとっては、講義が速いなど分かりづらいという評価が見られた。アカデミーが始まるまでに準備が必要である。

概ね、東京アカデミーの講義は好評であった。10 月からは実習が開始し、各領域ゼミの対応も手薄となる。今年も週 2 回の対策講座は、国家試験対策の方略をプロから学べるため、今後も東京アカデミーの対策講座は必要であると考えます。

2) 模擬試験について

模擬試験は年間計画通り実施した。内容は東京アカデミー 3 回、メディカコンクール 1 回、必修模試 1 回であった。

全体での模試結果は、9/19 第 1 回が 529 校中 476 位、その後東京アカデミーの 15 回講座が 9 月から始まり、10/4 の必修模試は 246 校中 57 位、その後も月 15 回の講座を受け、11/5 第 2 回では 529 校中 148 位、1/8 第 3 回模試では 303 校中 92 位と伸びてきている。東京アカデミーの連続講座の結果であり、当校の学生には必要であると考えます。

しかし個人の結果では、第 1 回模試での D 評価が 18 名（32%）と多く、講座受講後も第 3 回模試で 8 名（14%）であった。この D 評価者を 1 年間で C 評価（合格ライン）に上げるには、アカデミーの受講だけでは無理があり、その問題は生活習慣の改善が大きい（金銭面の問題でアルバイトを辞められない、朝起きられない、勉強に集中できない等）。

以上より、委員会では東京アカデミー講座は必要であると考えます。しかし D 評価者の生活習慣の改善や勉強方法などの指導を 1 年次からはじめ、領域ゼミと対策委員会でのようにフォローをしていくのか検討する必要があります。

保健師国家試験対策については、公衆衛生看護学領域が主体で対策委員会と連携を図り、全 3 回の全国模試（インエターメディカル社 学生全負担）を行った。全国模試第 1 回目（10 月初旬実施）までに、QB の過去問から全領域を網羅するよう全 5 回の小テストを作成して実施し、その解説も行った。小テスト及び解説については、東京アカデミーが某日の 1 時間目に実施した。また全国模試の解説会は 1 週間以内を目途に実施した。しかし、今年度の学生においては、教員の実施する解説会に出席しない者が多く、1/3 ほどいた。例年、変化がみられてきたが今年は伸び悩み、芳しくない結果が続いた。

3) 強化対策について

模試結果および受講参加状況を参考に要指導者（強化対策対象者）をその都度、選出し 9 月から学内強化対策を行ったが、参加しない学生が数名固定し D 評価者となっている。そのため各ゼミ教員に依頼し、指導連携を行った。今後でもゼミの担当教員との連携を図り進める必要があるが、実習などの出入りが激しく、対策委員も少ないため、国家試験対策の専門を 1 名置くような形も今後は必要と考える。また、特に強化対策に選出される学生は、今年からテキストとした QB 及びレビューブックの見方や使い方がうまくいかずテキストを十分活用できていなかった。答えだけを覚えようとしており、問題数が少ないことも活用できなかったのではと考えられる。次年度テキストについても検討していただきたい。

4) 低学年対策について

低学年の国試対策は、夏季休暇課題を manaba 上に問題を作成し e-learning の方法で実施した。主に問題に慣れること、学習姿勢を身に付けることを目的としたが、未提出者もあり、特に 1 年生が多かった。適当に○をつけ何回もやっており、自分のためという意識はなかったようである。1.2 年生にとってはこの課題の必要性が十分に伝わっていなかった。次年度からはその動機付けが必要であると考え、その目的を十分に説明したのちに実施をする。また学生委員会の学習支援などと連携して進めることが必要であるため、各学年の担任は国家試験対策委員も兼ねると連携がスムーズになると考えられる。

5) その他

正月明けに多賀大社にて合格祈願を実施した。参加した学生は看護学部から 26 名であった。毎年、多賀大社の参拝費用と合格祈願グッズのために教員のカンパをお願いしている。今年度は 50,751 円のカンパがあり、多くのカンパを頂いた。カンパから祈祷代金 30,000 円を差し引きした残金で合格祈願グッズを購入し作成した。これらのグッズは国家試験受験票渡し・激励会にて配布した。なお、保健師課程 30 名分の合格祈願グッズについては公衆衛生看護学領域で実施している。残金の 4,917 円については、次年度に繰り越して使っていただくこととなったため、次年度の国家試験対策委員会に引き継ぐ予定である。既卒者については毎週西山先生と平田先生が窓口となり、進捗状況の把握を行い無事に受験ができた。

以上、委員会の 1 年間の活動を振り返り、内部質保障のための自己点検評価を行い、委員会として機能していることを確認した。

2-4 実習調整委員会

1. 構成メンバー

- 1) 委員長：安田千寿
- 2) 委員：森本喜代美、花原恭子、後藤直樹、佐伯興平

2. 所掌事項

- 1) 実習調整に関すること
- 2) 各領域共通の実習要項の作成・印刷依頼
- 3) 実習指導者会議の企画・運営
- 4) 実習配置表の作成
- 5) 実習の予算に関すること
- 6) 滋賀県看護学校協議会に関すること（滋賀県下の実習調整含む）

3. 委員会活動

回	年 月 日(曜日)	議題(テーマ)・内容	備考 出席者人数
1	2024 年 4 月 2 日(火)	・年間活動計画、定例委員会日程、議事録作成担当の決定 ・地域統合実習Ⅰ・Ⅱ（新カリ担当）の確認 ・2024 年度の実習ローテーション表の確認 ・4 年生ガイダンス内容の確認 ・豊郷病院からの依頼内容の共有	4 名
2	2024 年 5 月 8 日(水)	・2024 年度実習要項の印刷仕上がり配布 ・2024 年度実習指導者会議の準備 ・2024 年度実習オリエンテーションの日程とメンバー表作成 ・2025 年度実習ローテーション表の確認 ・2024 年度地域統合実習の新規委託契約の確認 ・実習物品と予算	5 名
4	2024 年 6 月 11 日（月） ・12 日（火）	・実習施設管理者・指導者会議の準備・運営	参加者43名 (+教員24名)
5	2024 年 6 月 13 日(水)	・実習施設管理者・指導者会議の振り返り ・2024 年度の領域別実習メンバーの編集 ・2025 年度実習予定を滋賀県看護学校協議会へ提出準備 ・地域統合実習の報告書の書式と評価表の配信 ・ICT の授業活用に伴う実習への影響の検討	5 名
6	2024 年 7 月 10 日(水)	・2024 年度の実習メンバー確定 ・実習オリエンテーションの企画役割分担 ・学期末ガイダンス内容の確認 ・2025 年度実習ローテーション表の修正と学校協議会への報告	5 名
7	2024 年 8 月 28 日(水)	・実習オリエンテーションの運営	5 名
8	2024 年 9 月 11 日(水)	・実習オリエンテーションの振り返り ・領域別実習状況の共有システムについて ・2024 年度の実習メンバーの変更・施設への案内 ・2025 年度地域統合実習Ⅰの実習の修正案作成	5 名
9	2024 年 10 月 7 日(水)	・2024 年度実習状況の確認	5 名

		・2025 年度共通要項の見直し（感染症・インシデント） ・2025 年度の実習要項作成について ・2026 年度実習ローテーション表の案作成	
10	2024 年 11 月 7 日(木)	・2024 年度実習状況の確認 ・2025 年度共通要項の見直し（感染症・インシデント） ・2025 年度の実習計画確定（看護学校協議会の結果周知） ・2026 年度実習ローテーション表の案作成	4 名
11	2025 年 1 月 27 日(月)	・2024 年度実習状況の確認 ・2025 年度実習計画の変更（ローテーション表変更案） ・2025 年度実習指導者会議の交流会の検討 ・2025 年度予算について	5 名
12	2025 年 2 月 17 日(月)	・2024 年度実習状況の確認 ・2025 年度の実習要項作成依頼・確認 ・2025 年度実習指導者会議の交流会の検討	5 名
13	2025 年 3 月 10 日(月)	・2024 年度活動報告・年次報告書の確認 ・2024 年度実習状況の確認 ・2025 年度実習指導者会議の交流会の検討	5 名

4. 委員会総括

実習調整委員会のメンバーは 5 名へと減少したが、メンバーのない領域の確認にそれぞれのワーキング委員が対応し調整漏れのないように努め、年間業務を遂行することができた。また、実習委員のメンバーのうち 2 名が滋賀県看護学校協議会委員を兼任しており、学校協議会との調整においてもトラブルなく実施ができた。実習指導の充実化として、教員同士の情報共有を学科会議時の口頭報告に加え、ネットワークフォルダへの記入・閲覧を導入した。これにより情報が随時更新され実習指導に反映しやすい体制となった。

今年度より、実習調整委員会は教務委員会への報告義務が課され、実習の単位認定や全体の教務事項において、教務委員長から直接通知を受け委員会活動を行う形となった。大きな変更事項は、3 年生から 4 年生にかけての領域別看護学実習が、2025 年度から 3 年次で終了するカリキュラムになったことである。2024 年度が開始になってからの変更であったため、昨年度に確定していた 2025 年度、2026 年度の実習計画表の修正と学校協議会への通知、学部長を通して実習先への依頼が急務である。

今年度は新カリキュラムの成人・小児実習Ⅰが開始になったことを受け、実習ガイダンスの時期を早め 8 月開催としたが、前期科目の単位認定よりも前になったため実習グループの開示と訂正方法に苦労した。次年度のガイダンス内容をスリム化し、研修内容の取り込みをした上で開催時期を 9 月に戻すことも検討している。その他、次年度の課題として、実習施設管理者・指導者会の交流会の詳細を検討すること、実習におけるインシデント・アクシデント防止のための情報共有や、新カリキュラムの地域統合実習Ⅰ・Ⅱの実施状況の把握が挙げられる。以上より、委員会活動の一年間の活動を振り返り所掌事項とすりあわせ、自己点検評価を行い、委員会として機能していることを確認した。

2-5 学術誌編集委員会

1. 構成メンバー

- 1) 委員長：西山ゆかり
- 2) 委員：窪内敏子、後藤直樹、澤村歩美

2. 所掌事項

- 1) 学術誌の編集と出版
- 2) その他、学術誌に関すること

3. 委員会活動

第 14 巻の発刊の準備を、以下に行った。会議は適宜開催をした。

回	年月日（曜日）	議題（テーマ）・内容	備考
1	5 月	1. 投稿規定・執筆要項について、教授会での承認後に HP 掲載の準備と掲載 2. 年間計画について 1) 学術誌作成スケジュール 2) 委員会開催日について 3) テーマの締切日と申請方法について 3. 委員会メンバーの役割決定 4. ジボジトリーの手続き後に HP へのリンクを依頼（アドミッション室）	
2	8 月	1. 8 月 5 日（月）のテーマ申請〆切後に、投稿者の人数の確認 2. 今後の投稿に際しての日程と投稿に関する規定の変更と論文提出方法の説明をメールで案内 3. テーマリストの作成	
3	9 月	1. 9 月 18 日投稿〆切後に、イニシャルチェックを行い、投稿者に修正依頼 2. 各論文の ID と PW の付与 3. 査読者の選出と依頼 4. 依頼文作成（査読者宛） 5. 9 月 30 日（月）査読者の決定	オンライン投稿を併用したため、会議の回数を見直した。
4	10 月	1. 投稿者からの原稿チェック 2. 10 月 5 日、第 1 回目の査読者に論文をメールで配信（PW 設定と解除説明書の配信）	
5	11 月	1. 11 月 1 日投稿者へ査読結果返却 2. 11 月 30 日、修正原稿〆切後に原稿チェック	
	12 月	1. 査読者へ 12 月 1 日、第 2 回目の査読者に論文をメールで配信 2. 12 月 27 日に 2 回目査読結果を投稿者へ返却	
6	1 月	1. サンライズ出版に見積もりと校了スケジュールの確認 2. 1 月 27 日、投稿者最終原稿の提出後、サンライズ出版への印刷依頼	
	2 月	1. 2 月 10 日ごろに、出版社へ第 1 回原稿の提出 2. 初校校正：投稿者へ原稿チェック依頼	

		3. 投稿原稿の掲載順番の検討 4. 巻頭言の依頼（学部長） 5. 第 14 回の表紙・目次・抜き刷りの表紙のチェック（委員会）	
4	3 月	1. 3 月 5 日、2 回目構成変更のチェック（委員会）後に投稿者へ最終校正依頼 2. 編集後記原稿（委員長） 3. 3 月 21 日、最終原稿の誤字脱字チェック（委員会）後に修正があれば投稿者に確認 3. 3 月 24 日、出版社最終原稿の提出 4. 抜き刷りの冊数を投稿者に確認 5. 3 月 31 日に納品 6. 査読者、投稿者、連携病院等への郵送準備と郵送 7. 査読者への謝礼とお礼のメール 8. ジボジトリーの依頼（秋山さん） 9. 最終 PDF 原稿の保存（図書館） 10. ジボジトリーの手続き後に HP へのリンクを依頼（アドミッション室） ⇒2025 年 6 月頃予定（次年度委員会で掲載、リンクの確認をする。）	

4. 委員会総括

今年度も、例年通り 3 月下旬の製本完成を目指して年間スケジュールに従って業務を遂行し、3 月 31 日に発刊することができた。

投稿者は、主に本学教員と大学院生修了者であった。

本年度の投稿は 9 件で、内訳は、原著 4 件、資料 3 件、その他 2 件であった。原著は、それぞれ 2 名の学外者に査読を依頼した（8 名に依頼）。研究ノートおよび資料は、学内の教員に査読を依頼した。その他は、委員会でのチェックを行った。査読の結果、最終的に、原著 1 件、研究ノート 3 件、資料 3 件、その他 2 件となった。

今年度は、投稿原稿のやり取りをオンラインで行うために、情報漏洩対策として ID・PW の付与をテーマの申請の時点で行い、原稿送付までに PC ソフトの確認と操作方法について、投稿者・査読者・委員会・出版社で確認して進めることで、オンラインですべて行うことができた。今年度より、新たに著作権移譲承諾書、COI 申告書を提出することとなり、保管方法等について今後、決める必要があり、次年度の課題とする。

以上より、委員会活動の自己点検評価を行い、委員会として機能していることを確認した。

2-6 広報委員会

1. 構成メンバー

委員長：小林菜穂子

委員：小倉由紀子、高島留美、馬場好恵、中村美由紀、村上美潮、澤村歩美

吉田猛、宮川華、今宿團

（敬称略）

2. 所掌事項

- 1) 看護学部の広報活動に関する活動における各部局との連絡調整に関すること
- 2) 高校訪問、オープンキャンパス等の計画、実施に関すること
- 3) ホームページの企画・記事記載に関すること
- 4) 高大連携事業の運営に関すること

3. 委員会活動

	日 時	主な協議事項
第 1 回	2024 年 4 月 12 日（金）	1. 広報委員会規定、学生広報委員会内規 2. ワーキング年間スケジュール（担当メンバー紹介含む） 3. 4 月の高大連携（八幡高校） 4. OC 担当一覧表 5. ホームページ担当一覧（案）など
第 2 回	2024 年 5 月 8 日（水）	1. 5 月のオープンキャンパス 2. 4 月高大連携（八幡学校）のアンケート 3. 八幡高校次回 8 月企画に向けて 4. 滋賀県との連携講座について、進学説明会について など
第 3 回	2024 年 6 月 5 日（水）	1. オープンキャンパスについて（6 月～8 月の方向性、卒業生講演についてなど） 2. 近江高校との連携事業の協議状況について 3. 5 月のオープンキャンパス振り返り 4. 8 月八幡高校との高大連携講座について その他： 滋賀県（県教委）との連続講座担当について
第 4 回	2024 年 7 月 3 日（水）	1. 次年度パンフレットについて 2. 6 月オープンキャンパス振り返り、7 月企画について 3. 8 月の八幡高等学校との高大連携について 4. 県の連続講座について 5. 学生広報委員会活動報告 など
第 5 回	2024 年 8 月 1 日（木）	1. 大学パンフレット学生候補の承認報告 2. オープンキャンパス振り返り、9 月企画について 3. 8 月八幡高校高大連携講座について 4. ホームページ・フェイスブック掲載状況 その他： 県の連続講座について
第 6 回	2024 年 9 月 6 日（金）	1. 大学パンフレット進捗 2. 8 月オープンキャンパス振り返り、9 月企画について 3. 8 月八幡高校高大連携講座について 4. 近江高校との連携講座案 その他： オープンキャンパス参加者数（8 月 25 日まで分）
第 7 回	2024 年 10 月 3 日（木）	1. 次年度の OC の日程（案）について 2. 9 月オープンキャンパス振り返り 3. 8 月八幡高校との高大連携講座報告 4. 八幡高校（今後のスケジュールについて 12 月） その他： 近江高校との連携講座案
第 8 回	2024 年 11 月 13 日（水）	1. 今年度のオープンキャンパスの総括について 2. 大学パンフレット進捗 3. 八幡高校との高大連携講座（セミナーハウス報告、12 月企画） 4. 学生広報委員会報告 5. 3 月私立高等学校との連携講座について その他： 八幡高校との中間評価会議（10/29）の報告、大学の特色についての意見交換
第 9 回	2024 年 12 月 25 日（水）	1. 次年度オープンキャンパスでの看護体験一覧表について 2. 学生広報スタッフの活動について（次年度より）

		3. ホームページ・フェイスブック掲載状況 4. 学生広報委員会報告 4. 12 月の八幡高校との高大連携講座振り返り 5. 12 月の近江高校との連携講座振り返り その他：次年度予算など
第 10 回	2025 年 1 月 9 日（木）	1. 3 月のオープンキャンパスについて 2. 次年度 OC 看護体験テーマ提出期日について 3. 大学パンフレットの進捗状況報告 4. 学生広報委員会報告 5. 3 月 26 日開催の私立高校との連携講座案 など
第 11 回	2025 年 2 月 5 日（水）	1. 大学パンフレットの進捗報告 2. 学生広報スタッフ「いずみっこ」について 3. 3 月オープンキャンパス 学部企画（看護体験について） 3. HP, Facebook 記事の進捗状況 4. 3 月 26 日開催の私立高校との連携講座案 5. 2025 年度オープンキャンパス看護体験一覧提出状況 6. 2025 年度八幡高校高大連携スケジュール（案） その他：次年度の滋賀県高大連携事業について
第 12 回	2025 年 3 月 21 日（金）	1. オープンキャンパス申し込み方法の変更について 2. 学生広報スタッフ「いずみっこ」活動状況 3. 3 月オープンキャンパス、看護体験 最終確認 4. HP, Facebook 記事の進捗状況 次年度の担当者一覧（案） 5. 3/26 私立高校との高大連携講座 最終確認 6. 2023 年度八幡高校高大連携スケジュール（4 月 8 月確定） 7. 各ワーキングの活動報告など

4. 委員会総括

1) オープンキャンパスの運営について

（全）入試・学生募集委員会での企画から、今年度は OC を学部広報委員会として、実施を行った。入試変更に伴う入試相談内容への教員周知や、担当表の対応など、入試委員会とも連携し運営し大きな混乱はなかった。今年度は、年内公募推薦 B までの入学手続き者が 71 名と、例年より専願の出願が増加していたが、入学予定者 77 名となった。次年度は、学生募集に関する目標人数については、入学予定者の目標を 90 人とし、年内入試で 80 人を目指すこととなった。そのため出願者は、120 人とし、オープンキャンパスの参加者数を 140 人と設定したので、次年度はより高校生にとって分かりやすく・資格取得など聖泉大学の特色をいかした活動を行っていく。

また次年度は、新 2 年生の参加者数についても数値目標を設定したので、アドミッション室と連携しながら、どの学年においても魅力ある広報活動ができるよう取り組んでいく。

2) 高大連携講座について

<八幡高等学校との高大連携講座>

今年度も年間予定に沿って、運営を行った。高校との年 2 回評価会議を行いながら、運営をしているが、次年度も今年度の内容を継続した形で進めていくこととなっている。高校の担当教諭が次年度入れ替わる予定で、まだ移行期であると思われるが、連携をとりながら進めていく。

<近江高校との連携講座>

今年度、初めての企画運営となり、別科助産の先生方・学生さんに協力してもらいながら行った。時期が、12 月であったので八幡高校との重なりを考慮しながら次年度も運営していく必要があるが、着実に入試につながってきているので、次年度も高校教諭と連携をとりながら進めていく。

<私立高校との連携講座>

今年度も 3 月末に実施した。今年度は提携高校 4 校から、3 校の生徒さん（8 名）と保護者（2 名）の参加となった。参加者のアンケートからも満足度が高く、参加者数は少ないが、次年度も継続して運営をしていく。

3) 学生広報委員会について

今年度もInstagramでの記事投稿など行った。次年度からは、「いずみっこ」として、学生が自ら参加して学生広報スタッフの役割を担う方向へシフトする。学生広報委員会としては、解散となるが、自主的な活動により大学広報への活力も期待できるため、委員会としては、後方支援として今後も学生スタッフのフォローをしていく。

4) その他 大学パンフレットなども（全）入試・学生募集委員会と連携しながら進めていくことができた。また、HP, Facebook 記事の掲載も今年度は、臨時の記事作成もあり多く掲載できた。次年度も早目の依頼や担当者変更など臨機応変に対応しながら、行えるようにしていく。

以上、委員会活動の 1 年間の活動を振り返り、内部質保障のための自己点検評価を行い、委員会として機能していることを確認した。

2-7 キャリアアップセンター委員会

1. 構成メンバー

- 1) 委員長：平田美紀
- 2) 委 員：小林菜穂子、窪内敏子、高島留美、後藤則子、岸本沙希

2. 所掌事項

- 1) キャリアアップセンター
 - ①講座ビギナーコース・アドバンスコースに関する事項
 - ②卒業生研修会に関する事項

3. 委員会活動

回数	年 月 日	議題、内容等	備考
1	令和6年4月12日（月） 13：15～14：30	1. キャリアアップ委員会の役割分担・活動計画について 2. ビギナーコース、アドバンスコース講座内容について 3. 卒業生研修会について	
2	令和6年5月14日（火） 17：00～17：50	1. ビギナーコース第1回についてスケジュール・役割確認 2. 卒業生研修会について	
3	令和6年5月31日（金） 15：50～16：30	ビギナーコース第1回開催 （9：15～16：00） 1. 講座の振り返り 2. 第2回の役割分担、必要物品の購入手配等	参加者 16名
4	令和6年6月11日（火） 17：00～18：00	1. ビギナーコース第2回についてスケジュール・役割確認 2. アドバンスコース決定通知の発送作業 3. 卒業生研修会について	
5	令和6年6月28日（金） 16：30～17：00	ビギナーコース第2回開催 （9：30～16：00） 1. 第2回講座の振り返り 2. 第3回講座のタイムスケジュールについて	参加者 16名
6	令和6年7月9日（火） 16：30～17：15	1. ビギナーコース第2回講座のアンケート結果報告 2. ビギナーコース第3回についてスケジュール・役割確認 3. 卒業生研修会について	
7	令和6年7月26日（金） 16：00～16：30	ビギナーコース第3回開催 （9：30～16：00） 1. 第3回講座の振り返り 2. 卒業生研修会の案内文郵送について	参加者 16名
8	令和6年8月6日（火） 10：40～11：20	1. ビギナーコース第4回についてスケジュール・役割確認 2. 個別研究サポートの領域配分、教員への依頼について 3. アドバンスコースについて スケジュール・役割確認 4. 卒業生研修会案内文発送について	
9	令和6年8月23日（金） 10：40～12：10	ビギナーコース第4回開催 （9：30～16：00） 1. 第4回個別研究サポートの振り返り 2. アドバンスコースの役割分担、物品の購入手配等	参加者 16名
10	令和6年8月30日（金） 15：30～16：00	アドバンスコース開催 （9：30～16：00） 1. 講座の振り返り 2. 令和5年度活動報告書作成の役割分担の確認	参加者 5名
11	令和6年10月7日（月） 16：20～17：30	1. 卒業生研修会について 2. 令和5年度の活動報告書について	
12	令和6年11月18日（金）	1. 卒業生研修会について	

	13：00～14：00	2. 令和 7（2025）年度キャリアアップ講座のスケジュールについて 3. 看護キャリアアップセンター活動報告書について	
13	令和 6 年 12 月 30 日（金） 14：00～15：30	卒業生研修会 「臨床で看護の魅力を感じながら働くことについて ～心に残る患者との出会いを通して～」力石 泉氏	参加者 28 名
14	令和 6 年 12 月 9 日（金） 16：30～17：30	1. 卒業生研修会・懇親会の振り返りについて 2. 令和 7 年度予算案について 3. 令和 7 年度キャリアアップ講座のスケジュールについて 4. 看護キャリアアップセンター活動報告書について	
15	令和 7 年 1 月 9 日（木） 10：30～11：20	1. 令和 7（2025）年度キャリアアップ講座 2. 令和 7（2025）年度卒業生研修会について	
16	令和 7 年 3 月 7 日（金） 9：30～10：30	1. 令和 7 年度キャリアアップ講座案内の発送（121 施設）	

4. 委員会総括

キャリアアップ講座では看護研究について、ビギナーコースは看護研究の方法から個別研究相談までの 4 回開催とし、アドバンスコースは基礎的な統計について 1 回開講した。講座の案内は、前年度の 3 月上旬に発送しており、応募期間内にビギナーコースは 16 名、アドバンスコースは 5 名の応募があった。講座は、地域・精神・在宅看護学実習室、母性・小児看護学実習室、コンピュータ室を利用した。ビギナーコースの第 4 回で行った個別研究相談では、8 領域の教員が 2～4 名を担当した。受講者のアンケートではビギナーコース、アドバンスコースともに満足度は高く、具体的に研究方法を学ぶことができたという意見が多かった。

研究相談は、2 施設から申し込みがあった。近江八幡市立総合医療センターでは、8 題の研究課題に対して 3 回の指導を行った。また市立野洲病院では、3 題の研究課題に対して 3 回の指導を行った。いずれも、院内看護研究発表会での発表に至ることができた。また、共同研究については 1 件の申し込みがあり、母性看護学領域において共同研究に取り組むことになった。

卒業生研修会は「臨床で看護の魅力を感じながら働くことについて ～心に残る患者との出会いを通して～」をテーマに、力石 泉氏の講演を行った。参加者は卒業生 14 名、一般 14 名の合計 28 名であった。参加者のアンケートでは、自分自身の看護を振り返る機会となった、患者に寄り添った看護を提供していきたい。看護の魅力を改めて考えられた、元気をもらえた等であった。卒業生研修会の案内については、施設へチラシを発送し、委員会の LINE アカウントから 9 期生・10 期生へ情報提供したが、卒業生の参加は少ない状況が続いている。研修会テーマや開催時期について今後も検討が必要である。

委員会活動の 1 年間の活動を振り返り所掌事項とすり合わせ評価を行い、委員会として機能していることを確認した。

2024 年度
聖泉大学人間学部
年次報告書

学部教員・委員会

学部教員活動

(2024 年 4 月～2025 年 3 月)

(以下、学部のメンバーの氏名は下線で示してある)

1. 教育活動

唐楽寧 教授

前期：日本語 A、実用中国語 A（週 2）、会計実務 I、経営学概論、プロジェクト演習 A、専門演習 A、プロジェクト演習 C、専門演習 C、卒業研究 I 副査

後期：日本語 D、経済学、プロジェクト演習 D、プロジェクト演習 D、卒業研究 II 副査

李艶 教授

担当科目

前期

「産業・組織心理学」「リスク・危機管理心理学」

「専門演習 A」「専門演習 C」「プロジェクト演習」「卒業研究 I」

「社会心理学」（大学院）「プロジェクト演習 A-秋入」「専門演習 A-秋入」

後期

「社会・集団・家族心理学」「異文化間心理学」「消費者心理学」

「専門演習 B」「専門演習 D」「プロジェクト演習」「卒業研究 II」

「家族論」（人間学部、看護学部）「プロジェクト演習 B - 秋入学生」

「専門演習 B-秋入学生」

富川拓 准教授

【担当科目】

前期「基礎ゼミ C」

「社会学概論」「ボランティア論」

「プロジェクト演習 A」「プロジェクト演習 C」「専門演習 A」「専門演習 C」

「卒業研究 I」

後期「基礎ゼミ D」「基礎ゼミ D（再履修）」

「地域社会学」「ジェンダー論」「家族論」「近江での SDGs の実践」

「プロジェクト演習 B」「プロジェクト演習 D」「専門演習 B」「専門演習 D」

「卒業研究 II」「卒業研究 I（秋入学生）」

通年「キャリアデザイン B」

【その他】

・性教育講座の開催

別科助産専攻との協働で大学生を対象とした性教育講座を企画し、学内で開催した。講座の

講師を担当した学生の指導を行った。

多胡陽介 准教授

【担当科目】

前期「基礎ゼミ C」

「スポーツバイオメカニクス」「防災論」「プロジェクト演習 C」「専門演習 C」

「卒業研究 I」

後期「基礎ゼミ D」「基礎ゼミ D（再履修）」

「健康管理学」「発育・発達と老化」「運動プログラムの理論と実際」

「健康運動実習 A（ジョギング・ウォーキング）」「プロジェクト演習 D」「専門演習 D」

「卒業研究 II」「卒業研究 I（秋入学生）」

通年「キャリアデザイン B」

松田崇志 特任准教授

担当科目

前期

「心理学概論」「心理学概論 A」「知覚・認知心理学」「心理学実験」

「専門演習 A」「専門演習 C」「プロジェクト演習 A」「プロジェクト演習 C」「卒業研究 I」

後期

「心理学研究法 A」「神経・生理心理学」「人体の構造と機能および疾病」

「専門演習 B」「専門演習 D」「プロジェクト演習 B」「プロジェクト演習 D」「卒業研究 II」

小澤克彦 講師

1 年：「情報処理演習」「アカデミックライティング A」「情報処理入門」「統計学」

「アカデミックライティング B」「応用情報処理演習」「キャリアデザイン A」

3 年：「専門演習 A」「専門演習 B」「プロジェクト演習 A」「プロジェクト演習 B」

「ジョブメソッド」

4 年：「専門演習 C」「専門演習 D」「プロジェクト演習 B」「プロジェクト演習 D」

「卒業研究 I」「卒業研究 II」

別途：PC勉強会

松原耕平 特任講師

1 年：「心理学概論 B」「発達心理学（看護）」「発達心理学（人間）」

2 年：「心理学統計法（再履修）」「心理学基礎演習 I（再履修）」「臨床心理学概論」

「心理学研究法 B」

3 年：「教育・学校心理学」「プロジェクト演習 A」「プロジェクト演習 B」「専門演習 A」

「専門演習 B」

4 年：「心理演習」「心理実習」「プロジェクト演習 C」「プロジェクト演習 D」

「専門演習 C」「専門演習 D」「卒業研究 I」「卒業研究 II」

別科 1 年：「母性の心理・社会学」

大学院 1 年：「発達心理学」

岡野太郎 特任講師

【担当科目】

(前期) 感情・人格心理学, 心理的アセスメントⅡ, 心理学基礎演習Ⅰ, 心理演習, 精神疾患とその治療, プロジェクト演習 A, プロジェクト演習 C, 専門演習 A, 専門演習 C, 卒業研究Ⅰ, ヘルス・コミュニケーション学

(後期) 心理学基礎演習Ⅱ, 心理的アセスメントⅠ, 心理実習, プロジェクト演習 B, プロジェクト演習 D, 専門演習 B, 専門演習 D, 卒業研究Ⅱ, 心理学統計法 (再履修), 心理学基礎演習Ⅰ (再履修)

【大学内でのその他の教育活動】

公認心理師資格志望者に対する大学院入試対策勉強会 (2024 年 4 月-8 月)

聖泉大学男子サッカー部 顧問

【学外での教育活動】

芦屋大学臨床教育学部 非常勤講師 (発達心理学Ⅰ・Ⅱ, 教育心理学研究法Ⅰ・Ⅱ)

神戸医療福祉専門学校言語聴覚士科 非常勤講師

(実習ゼミⅡ, 心理測定法, 学習・認知心理学)

心理系大学院受験対策塾プロロゴス「公認心理師試験対策講座 (研究法・統計・心理アセスメント)」 講師 (2024 年 5 月 27 日)

山堀貴彦 助教

授業担当科目

前期：「健康運動実習 C」「看護学部スポーツ実技 A (2 クラス)」

後期：「スポーツ実技 B」「スポーツ実技 C」「健康科学演習 (トレーニング)」「トレーニングプログラム作成演習」「健康管理学」「看護学部スポーツ実技 B (2 クラス)」

部活動

男子ホッケー部の監督として部員 17 名の指導を行なった。(年間 200 日活動)

【試合結果】

関西学生春季ホッケーリーグ 1 部 5 位

関西学生秋季ホッケーリーグ 1 部 8 位

全日本大学ホッケー王座決定戦 ベスト 8

全日本学生ホッケー選手権大会 ベスト8

山口隆介 講師

前期：現代文化論 基礎ゼミ C 専門演習 A プロジェクト演習 A 専門演習 C プロジェクト演習 C 卒業研究 I 卒業研究 II (再)

後期：哲学 歴史学 基礎ゼミ D 専門演習 B プロジェクト演習 B 専門演習 D プロジェクト演習 D 卒業研究 II 卒業研究 I (秋入学)

通年：キャリアデザイン B

2. 研究活動

唐楽寧 教授

【研究活動】

1. 日本社会関連会計学会スタディグループメンバーとして研究活動中
第7回研究会：2024年8月27日(火)(明治大学)研究会報告
題名「近江商人の経営理念とパーパス経営」

李艶 教授

【論文】

1. 「大学生の心理についての研究 (3)
ーコロナ禍における大学生の同調行動とその関連についてー」
聖泉論叢 No31 P.1-18
2. 「大学生の心理についての研究 (4)
ーコロナ禍における大学生の親和欲求及び刺激欲求と SNS 依存の関係ー」
聖泉論叢 No31 P.19-36

【学会発表】

1. 「大学生の心理について ー幸福感を中心としてー」
日本心理学会第88回大会 熊本城大ホール 2024年9月8日
2. 「大学生の心理について ーコロナ禍における美意識の変化ー」
日本教育心理学会66回総会 アクトシティ浜松 コンgressセンター
2024年9月15日

【2024 日本心理学会第 88 回大会シンポジウム】

2024年9月8日日本心理学会第88回大会でシンポジウムを企画者、話題提供者と講演者として登壇しました。

講演のテーマ：日本心理学会の国際化への取り組み
若手研究者の国際化を支える

【公益法人日本心理学会 「文化と心理学研究会」 活動】

公益法人日本心理学会の「文化と心理学研究会」の代表として、14年間にわたって研究活動の運営・企画を行った。

2024年度はAIと人類の生活についてのテーマを取り上げている。

【公益法人日本心理学会 国際委員会 活動】

公益法人日本心理学会国際委員として、国際共同研究や心理学の国際的活動に参加し、若手研究者の国内外交流を促進し、グローバルな視野での研究とキャリア構築をサポートする活動、グローバルネットワークを拡張・充実させていくために、シンポジウムの開催や国際共同研究の奨励・促進企画などを支援する活動に参加しています。

富川拓 准教授

【論文】

- ① 富川拓, 2024, 「日本におけるサービス・ラーニングの展開 (26) —インターハイスクール型課外活動でのインタビュー調査から—」『関西教育学会年報』第48号, pp66-70.
- ② 平田美紀・戸田由美子・富川拓・石井薫, 2025, 「聖泉研究フォーラムの活動報告と今後の課題」『聖泉看護学研究』14, pp75-79.

【学会等】

1. 発表

- ① 関西教育学会第76回大会 (2024年11月30日、京都大学)
富川拓「日本におけるサービス・ラーニングの展開 (31) —単位制高校における社会的スキルや態度の変化—」
- ② 第34回滋賀県母性衛生学会学術集会 (2025年2月22日、近江八幡市立総合医療センター)
東紅葉・中川里奈・伊藤呉羽・北村結萌・前田愛加・北川結萌・北山楓花・田井中紅葉・富岡樂々・藤澤佳奈・佐保美奈子・中谷三佳・中村美由紀・中井恭子・富川拓「思春期男子のためのプレコンセプションケアに関する文献検討」

2. 座長

- ①第1回 聖泉研究フォーラム 分科会 座長 (9月20日、聖泉大学)
- ②滋賀県社会福祉学会 第43回大会 分科会 座長 (2月21日、滋賀県立長寿社会福祉センター)

3. 実行委員

滋賀県社会福祉学会 第 43 回大会 実行委員会 委員

4. 審査委員

滋賀県社会福祉学会 第 43 回大会 審査委員会 委員

5. 奨励賞選考委員

滋賀県社会福祉学会 第 43 回大会 奨励賞選考委員

【競争的資金】

1. 科学研究費

日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C)「サービス・ラーニングを通じたコロナ後の「地域社会と学校の連携の再構築」」(2024 年～2026 年度)

4,550 千円(直接経費: 3,500 千円、間接経費: 1,050 千円)

研究代表者: 大束貢生(佛教大学)、研究分担者: 古川秀夫(龍谷大学)、富川拓(聖泉大学)、山田一隆(東海大学)

2. その他

京都華頂大学・華頂短期大学教育研究活動助成金「地方自治体における男子・男性を対象とした男女共同参画政策について」(2024 年度) 500 千円

研究代表者: 新矢昌昭(華頂短期大学)、研究分担者: 富川拓(聖泉大学)

多胡陽介 准教授

【研究発表】

第 1 回聖泉研究フォーラム「ラグビートップリーグ選手におけるタックル動作の運動学的特徴」

【資料】

「サロンで気軽に使える！わかりやすい！レクリエーション・アイデア集」多胡陽介，安孫子尚子監修，自主製作，2024 年 3 月 14 日発刊

松田崇志 特任准教授

- ・ 学会参加(日本認知心理学会，日本心理学会)

松原耕平 特任講師

【学術論文】

- ・ 石川信一・岸田広平・藤里紘子・高橋高人・松原耕平・笹川智子(2024)「治療から予防に活かす子どもの認知行動療法:実践研究の成果と課題」認知療法研究, 17 卷(2),

pp.210-216.

【学会発表】

- ・ 岸田広平・石川信一・笹川智子・藤里紘子・松原耕平（2024）「子どもの不安と抑うつに対する認知行動療法—多様な文脈における適応のプロセスを語る—」 第 24 回日本認知療法・認知行動療法学会，2024 年 7 月，福岡.
- ・ 岸田広平・林愛理・波光涼風・松原耕平・杉山智風・高橋史「学校現場における認知行動療法を活用した予防的支援—現場で直面する様々な障壁を乗り越えるヒント—」 日本認知・行動療法学会第 50 回大会，2024 年 9 月，神奈川.

岡野太郎 特任講師

【論文】

Yamanaka, T., Yuruki, K., Okano, T., & Inouen M. (2024). Challenges Faced by Parents of Children With Selective Mutism in Accessing Medical Care Services. *Cureus*, 16(10), e71304. <https://doi.org/10.7759/cureus.71304>

難波 愛・岡野 太郎・道城 裕貴・清水 寛之（2024）. 大学が主催する地域子育て支援拠点の利用ニーズに関する研究——神戸学院大学「子育てサロン『まなびー』」利用者への面接調査を手がかりに—— 神戸学院大学心理学研究, 7(1), 47–58.

山口隆介 講師

【紀要への寄稿】

1. 「敵を愛すること —トマス・アキナス、渡辺和子、本田哲郎—」、京都ノートルダム女子大学カトリック教育センター紀要『MARANATHA マラナタ』31 号(2025 年 3 月発行)、p.31-57

【研究ノート】

1. 「トマス・アキナスの聖書註解における愛概念研究」、聖泉大学人間学部紀要『聖泉論叢』32 号(2025 年 3 月発行)、p.21-36

2. 「ニーグレンのアガペー概念とトマス・アキナスのカリタス概念」、聖泉大学人間学部紀要『聖泉論叢』32 号(2025 年 3 月発行)、p.37-49

【研究資金】

2024 年度聖泉大学研究助成費「トマス・アキナスの聖書註解研究を通して、キリスト教的愛が持つエロース的な面を明らかにする試み」10 万円（上記投稿論文および研究ノートはすべて同助成費による）

3. 地域貢献

李艶 教授

○ 地域活動

- ① 京都市 外国人労働者の適応についての講演（2024 年 9 月）
- ② 大津市 国際交流フォーラムの提言と実施（2024 年 4～2025 年 3 月）
- ③ 京都府 留学生相談ボランティア(継続)（2024 年 4 月～2025 年度 3 月）

富川拓 准教授

【委員】

- ・滋賀県彦根市男女共同参画審議会 副会長
- ・滋賀県甲賀市男女共同参画審議会 委員
- ・滋賀県彦根市人権尊重審議会 委員

【アドバイザー等】

- ・滋賀県立男女共同参画センター G-NET しが 事業アドバイザー（2022 年度～現在に至る）
- ・特定非営利活動法人 男女共同参画をすすめる会・IYOU 淡海 事業アドバイザー（2024 年度）
- ・滋賀県総合企画部人権施策推進課「性の多様性に関するパネル」 作成協力（2024 年度）

【講師等】

- ①滋賀県主催「滋賀県知事とのジェンダー平等に関する意見交換会」（2024 年 7 月 7 日）
司会、ファシリテーター
- ②滋賀県立男女共同参画センター G-NET しが主催「ジェンダー平等ミーティング」
（2024 年 8 月 22 日） 講師 テーマ「学校とジェンダー」
- ③滋賀県彦根市稲枝北学区人権推進協議会主催「市民学習会」（2024 年 10 月 19 日）
講師 テーマ「トランスジェンダーと性差別を考える」
- ④滋賀大学サステナウィーク実行委員会主催「滋賀大学サステナウィーク 2024」
（2024 年 11 月 28 日） 講師 テーマ「くれよんカフェ セクシュアルマイノリティを語る」
- ⑤米原市役所「政策形成入門研修」（2025 年 1 月 22 日）
講師 テーマ「米原市役所オープン・カンパニー、インターンシッププログラムの検討」
- ⑥滋賀県男女共同参画審議会（2025 年 1 月 30 日） 意見陳述
テーマ「学校等での男女共同参画教育の推進ならびに子どもの意見表明の推進」
- ⑦滋賀県立男女共同参画センター G-NET しが主催「ジェンダー平等ミーティング」
（2025 年 2 月 15 日） 講師 テーマ「武道とジェンダー」
- ⑧滋賀県立男女共同参画センター G-NET しが主催「市町男女共同参画担当職員研修」
（2025 年 3 月 7 日） 講師 テーマ「地域におけるジェンダー平等の推進ー若者の活

動・取組をとおして考える」

【メディア掲載】

- ①中日新聞（2024年5月12日、20面） 意見の掲載

タイトル「官民学の理解不可欠 県内広がるパートナーシップ」

- ②Yahoo!ニュース（2024年9月20日） 取組の掲載

タイトル「年間通じて不定期開催。誰もが認め合える社会を考える「ジェンダー平等ミーティング」」

- ③フリーマガジン『CHEKiPON（チェキポン）』10月号 取組の掲載

タイトル「“誰もが自分らしく生きる”ための、ジェンダー平等ミーティング。2024夏休みのテーマは「学校とジェンダー」！」

- ④中日新聞（2025年2月1日、16面） 取組の掲載

タイトル「市の人材確保へ共同研修 若手職員と聖泉大生が意見交換」

- ⑤京都新聞（2025年3月8日、31面） 取組と意見の掲載

タイトル「滋賀県近江八幡市で若者たちがジェンダー話し合い丸5年 「ジェンダー平等ミーティング」、団体発足も」

【その他】

・内閣府主催「三原じゅん子内閣府特命大臣（男女共同参画）、友納内閣府大臣政務官との意見交換会」に同行参加（2025年1月18日）※指導する学生が意見交換会に参加

・任意団体「くれよん」共同代表（2022年度～現在に至る）

ジェンダー平等の推進を目指す活動を行う、若者を中心とした団体。びわ湖東北部地域連携協議会の「2022年度地域人材活性化支援事業」として、富川と滋賀県立男女共同参画センターG-NETしがとの連携で設立を支援した。

多胡陽介 准教授

【委員】

滋賀県運動・スポーツ実施率向上検討会議 委員

環びわ湖大学・地域コンソーシアム大学地域連携課題解決支援事業選考委員会 委員

湖東定住自立圏共生ビジョン KPI 外部評価 委員

彦根市運動推進委員会 委員

彦根市地域支援会議 委員

彦根市地域スポーツ・文化クラブ活動整備推進協議会 副会長

【講師】

講師『子ども学び座「モルックであそぼう」』（長浜市七尾まちづくりセンター，8月1日）

講師『アクティブ・シニア講座 体力測定と介護予防運動で健康知識を身につけよう～

いずみ体操をみんなで〜』彦根市鳥居本地区公民館，9月19日)

松田崇志 特任准教授

講師『高齢者の「こころ」を理解する』(びわ湖東北部地域連携協議会主催 2024年度市民教養講座，2024年9月21日)

小澤克彦 講師

学習支援活動「中学生を中心に学びを通じた地域の居場所」彦根市中地区公民館 毎週月曜日 19時～21時

松原耕平 特任講師

- ・ 夏季こころあっぷ指導者養成研修会講師 一般社団法人青少年のための心理療法研究所，2024年7月12日.
- ・ 春季こころあっぷ指導者養成研修会講師 一般社団法人青少年のための心理療法研究所，2025年3月1日.
- ・ JICAP-EXPO2025ー青少年のための心理療法研究所第2回学術年次大会ー企画・運営 一般社団法人青少年のための心理療法研究所，2025年3月8日.

岡野太郎 特任講師

【委員等】

大阪府版強度行動障がい専門支援モデル(いぶきモデル)普及事業 アドバイザー
聖泉大学カウンセリングセンター 相談担当者

【講師等】

びわ湖東北部地域連携協議会主催 2024年度FD・SD研修会「ABAに基づく“生き活き”とした職場づくり(2025年1月24日 聖泉大学にて)

【その他】

『聖泉論叢』論文査読

山堀貴彦 助教

米原市スポーツ推進審議会 副会長

BlueSticks SHIGA 監督

Progress Hockey School 講師(毎週水曜日 18時～20時 聖泉大学グラウンド)

山口隆介 講師

・2024年度 「地域の魅力発見」プロジェクトの一環として2024年度キャリアデザインB受講生と共に地域の地蔵を調査し、12月3日彦根市役所文化財課に報告。

委員会活動
(2024 年 4 月～2025 年 3 月)

2－1 教務委員会

1. 組織

- 1) 委員：富川拓（委員長）、山口隆介（副委員長）、多胡陽介、松原耕平
- 2) 事務局：山川直美、伊藤茂賢

2. 任務

教務に関する事項

3. 委員会活動

4 月	第 1 回委員会 4 月 23 日 審議：委員会業務の役割分担、ホームルーム担当について、卒業研究Ⅰ・Ⅱの実施要項について 協議：教務委員会の年間スケジュールについて、他ゼミのプロジェクト演習への自主参加について 報告：中期計画における学部教務に関する事項について、学部教務委員会・教務課の 2024 年度予算について、補助金申請においてクリアすべき事項（学部教務関連）について、認証評価における学部教務に関する事項について、集中授業の日程について、男子ホッケー部と女子サッカー部の公欠に関わる年間試合スケジュール、全学教務委員会の報告
5 月	第 2 回委員会 5 月 28 日 審議：2024 年度後期科目等履修生・聴講生・研究生の募集、前期（第 2 ターム）定期試験について、前期卒業判定教授会の日程、前期学位記授与式の日程、「精神疾患とその治療」の科目主担当について、 協議：教務委員会の年間スケジュールについて、2025 年度開講科目・不開講科目、科目担当者等について 報告：公欠願について、アセスメントポリシーについて、多様な背景を持った学生への修学支援に係る企業との連携協定について、認証評価における学部教務に関する事項について、全学教務委員会の報告、卒業研究Ⅰの進捗
6 月	第 3 回委員会 6 月 25 日開催 審議：長期欠席者への対応について 協議：Grow-Up Week の実施について、3 年次編入生(2+2) カリキュラムについて、後期時間割について、後期ガイダンス資料について、2025 年度開講科目・不開講科目について、2024 年度後期の再履修クラスについて 報告：受講状況調査について、全学教務委員会の報告、卒業研究の副査につ

	いて、SA 制度の活用状況、気になる学生について
7 月	第 4 回委員会 7 月 23 日開催 協議：前期開講科目の単位取得が困難な学生への対応について、後期時間割について、後期ガイダンスについて 報告：全学教務委員会の報告、Grow-up week の報告、期末試験について、気になる学生について
8 月	第 5 回委員会 8 月 27 日開催 審議：前期卒業判定、単位取得が困難な学生への対応について 協議：カウンセリングセンターの利用に関する出欠の扱いについて、 報告：再試験の受験状況、後期の科目等履修生及び聴講生について、前期卒業式について、後期履修登録について、気になる学生について
9 月	第 6 回委員会 9 月 17 日開催 審議：再履修クラスの設定 協議：2025 年度カリキュラムと科目担当者について、認証評価への対応について 報告：2024 年度後期における前期開講科目の再履修クラスの設定、後期履修登録について、前期卒業式について、指導が必要な学生について、全学教務委員会の報告
10 月	第 7 回委員会 10 月 29 日開催 審議：2025 年度カリキュラムと科目担当者（非常勤講師を含む） 協議：Grow-up week について、PLOG テストについて 報告：第 3 回受講状況調査の結果、HR 担当一覧の更新について、認定心理士要件に関するシラバス申請について、指導が必要な学生について、
12 月	第 8 回委員会 12 月 3 日開催 審議：非常勤講師の依頼、2025 年度予算、ジョブメソッドの担当者、看護学部・大学院・別科からの科目担当依頼 報告：全学教務委員会の報告、認定心理士要件に関するシラバス申請について、Grow-up week の実施結果、指導が必要な学生について
1 月	第 9 回委員会 1 月 28 日開催 審議：非常勤講師の依頼、2025 年度前期時間割 協議：2024 年度人間学部教務委員会の総括、臨時教務委員会の開催、2025 年度のゼミの人数について、2025 年度 4 回生の卒業論文について、2025 年度卒業研究 I・II（再履修クラス）と卒業研究 II（秋入学生クラス）について、2025 年度人間学部学年暦、2025 年度前期履修ガイダンス・履修指導の日程、2025 年度履修要項（電子版）の作成、2025 年度シラバス作成及びシラバスチェック

	報告：卒業研究、Grow-up week の実施結果、全学教務委員会の報告、指導が必要な学生について
2 月	第 10 回委員会 2 月 5 日開催 協議：学生対応について 第 11 回委員会 2 月 25 日開催 審議：卒業判定、学位記授与式総代・学生表彰等の選出、進級判定、卒業ができない学生への対応について、中期計画について 協議：2024 年度人間学部教務委員会の総括について 報告：卒業研究Ⅱ等の前期開講について
3 月	第 12 回委員会 3 月 18 日開催 協議：心理演習と心理学実験の日程の重複について、2025 年度前期ガイダンス・履修指導について、2024 年度人間学部教務委員会の総括について、2024 年度人間学部年次報告書について、中期計画について、 報告：履修要項（電子版）作成の進捗について、シラバスチェック、シラバス修正の進捗について、指導が必要な学生について

4. 総括

委員会活動の一年間の活動を振り返り、委員会の任務とすりあわせ、自己点検評価を行った。適切に業務が遂行できたことを確認した。

2-2 学生委員会

1. 構成メンバー

- 1) 委員長：山堀貴彦
- 2) 委員：小澤克彦、岡野太郎

2. 所掌事項

- 1) 学生生活に関わる業務
 - ・学生の自主活動(課外活動・ボランティア等)に関わる業務
 - ・学生の自治(学友会・学園祭・卒業パーティー)に関わる業務
 - ・学生の団体(クラブ・同好会等)に関わる業務
 - ・学生の健康に関わる業務
 - ・学生の安全にかかわる業務
- 2) 奨学金(外部)にかかわる業務
- 3) 学長表彰・学長奨励表彰にかかわる業務

3. 委員会活動

例年通り上記業務に係る諸活動が行われた。

4. 総括

委員会活動の一年間の活動を振り返り所掌事項とすりあわせ、自己点検評価を行い、委員会として機能していることを確認した。

2-3 進路支援委員会

1. 構成メンバー

委員長：多胡陽介、委員：山堀貴彦、秋山茂也、那須由美子

2. 所掌事項

学生の進路支援に関わる業務、資格取得・検定試験合格等の支援に係る業務

3. 委員会活動

4 月	第 1 回委員会 (4/18) 議事：令和 5 年度の役割分担、入学前課題の活用、外部団体による学生相談
5 月	第 2 回委員会 (6/13) 議事：今後の 4 回生に対する支援について、3 回生への支援について、滋賀労働委員会の 出前授業について、進路支援室の活用について等
6 月	第 3 回委員会 (7/11) 議事：4 回生面談の進捗状況と今後の支援について
7 月	第 4 回 (9/5) 議事：4 回生および 3 回生の今後の支援について、4 回生の就職活動状況について、8 月 9 日（水）しがジョブフェアの報告等
10 月	第 5 回 (10/25) 議事：4 回生および 3 回生の今後の支援について、4 回生の就職活動状況について、後期の ジョブメソッドスケジュール等
11 月	第 6 回 (11/21) 議事：4 年生への就職支援と就職率向上について、3 年生への支援について、令和 6 年度進 路支援委員会予算に向けて等
12 月	第 7 回 (12/19) 議事：4 回生への就職支援について、3 回生の面談分担について、令和 6 年度進路支援委員 会予算案について、2024 年度学生便覧について等
1 月	第 8 回委員会 (1/16) 議事：4 回生への就職活動状況・就職支援について、3 回生への就職支援について、令和 6 年度進路関係図書の選出について、ハローワーク彦根の出張相談について
2 月	第 9 回委員会 (2/22) 議事：3 回生への進路支援について、今年度の総括について、4 回生への進路支援につい て、キャリアデザイン B とジョブメソッドの予定について等
3 月	第 10 回委員会 (3/21) 議事：今年度の総括について、3 回生への進路支援について、キャリアデザイン B とジョ ブメソッドの予定について等

4. 総括

委員会活動の一年間の活動を振り返り所掌事項とすりあわせ、自己点検評価を行い、委員会として機能していることを確認した。

2-4 紀要委員会

1. 構成メンバー

- 1) 委員長：山口隆介
- 2) 委員：松原耕平

2. 所掌事項

『聖泉論叢』に関わる業務

- ・『聖泉論叢』発行に関わる業務
- ・『聖泉論叢』頒布に関わる業務

3. 委員会活動

4月	第1回委員会 本年度スケジュールと役割分担を審議、確定。
5月	第2回委員会 業務状況確認。
6月	第3回委員会 業務状況確認。
7月	7/26 紀要投稿希望者調査終了
8月	第4回委員会 投稿希望調査結果報告。投稿希望者全員に執筆依頼。
9月	9/6『聖泉論叢』原稿回収。第5回委員会 原稿確認及び査読方法の検討
10月	査読者選定作業
11月	査読者選定作業。下旬に一部査読開始
12月	査読者選定作業。査読結果返却および修正期間。
1月	聖泉論叢発行に向けての作業および査読者と執筆者による改稿作業
2月	聖泉論叢発行に向けての作業
3月	『聖泉論叢』32号発行と頒布

4. 総括

委員会活動の一年間の活動を振り返り所掌事項とすりあわせ、自己点検評価を行い、委員会として機能していることを確認した。

反省点としては、査読者選定に時間をかけすぎたことがある。それがスケジュールを圧迫したのでその点を2025年度は改めねばならない。また委員長が業務についての精査を怠り、学内ルール（学内の査読者には謝礼は支払われない）を理解しないまま査読への謝礼を定め支払うことができない謝礼を約束して査読を依頼してしまうということが起きた。最終的に委員長から書面で学内の各査読者には説明と謝罪を行なった。今後は、学内ルールの把握に努めることとする。

以 上

2-5 公認心理師委員会

1. 構成メンバー

- 1) 委員長：李艶
- 2) 委員：松田崇志、松原耕平、岡野太郎

2. 所掌事項

聖泉大学人間学部における公認心理師養成に係る業務

3. 委員会活動

- 心理実習施設について【5領域】
- 心理実習に係る学生保険の検討を行った。
- 心理実習に係る公欠手続きについて検討を行った。
- 心理実習事前・事後学習のスケジュールと内容について検討を行った。
- 心理実習要項について検討を行った。
- 心理実習マニュアルの改訂を適時行った。
- 院試対策マニュアルの改訂を適時行った。
- 心理実習記録簿の改訂を適時行った。
- 「心理実習」の教員評価シートおよび自己評価シートについて検討を行った。
- 年度の総括

2024年度 委員会会議	内容
第1回 2025年4月5日	1. 心理実習担当教員の取り扱いについて 2. 実習先施設の確認 3. 公認心理師資格取得希望者の再確認と年次ごとの動きについて 報告：資格希望者は、2年生5名、3年生1名、4年生2名（1人は過年度生）であった。
第2回 2025年10月1日	1. 「心理実習」の要件について審議した。 2. 「心理的アセスメントⅠ」における「事前学習会」について 報告：「心理実習」の実施状況 次年度に向けての準備
第3回 2025年2月20日	1. 心理演習・心理実習のシラバス表記と授業形式について 協議した。 2. 心理演習・実習の履修要件のGPAについて協議をした。継続協議の結果 履修要件のGPAは2.2と決議された。 報告：図書館所蔵の心理学関連書籍について

4. 総括

委員会活動の一年間の活動を振り返り所掌事項とすりあわせ、自己点検評価を行い、委員会として機能していることを確認した。

以 上